

TUS 東京理科大学報

Journal

特集

火災研究 最前線



多目的水平載荷加熱装置

大学機関として所有する耐火炉としては国内で最大規模を誇っています。建築物の水平部材である「梁、床、屋根」を中心に、垂直部材である「柱、壁」など、建築物のあらゆる構造部材について、最大(W) 3m×(B) 4m、(H) 3.5mまで対応可能であり、ISO834標準加熱温度曲線による耐火性能試験・評価に対応が可能です。また、加熱と載荷の両機能を一体化することで、試験体対象部材に外部加力を与えながら耐火試験を行うことが可能な装置です。

※ISO標準加熱曲線は、実際の典型的な区画火災の時間-温度曲線を表現したものであり、1時間で約1000℃となります。

vol. 193

物華天宝 かいぼりに想う

1月末、井の頭公園でかいぼりが始まった。ポンプで排水した池底を干した後水を戻すこの作業には、相当な時間と労力が見込まれる。池底での生物捕獲作業は、複数の新聞に写真入りで掲載されていた。珍しいもの見たさで公園に出かけることにした。池は、園内へ通じる坂道の途中から姿を見せる。離れていても質感が伝わる黒茶けた池底は、日頃の風景を一変させていた。日差しをガラス片のように砕いてまき散らす水面のかわりに、のっぺりとした土が無愛想に

横たわる様子は、慣れない目には異様に映った。

かいぼりの目的は、生態系の整備と水質改善にある。新しい水は、環境、水質ともに改善された池に満たされる。この学報が刷り上がる4月には、ボート遊びの歓声が桜を映した池から響いているだろう。

4月は、新しい経験に事欠かない。一つひとつを受け止め、吸収し、成長の糧とするためには、心を空っぽにするのが先決といわれる。コップに新しい水を入

れるには古い水を捨てなければならない—かいぼりの現場に立つと、この喩えがかつてない現実感をもって迫ってきた。心に淀む無意味なこだわりや凝り固まった価値観を捨て去るのは、かいぼりと同じく、言うほどにはやさしくない。しかし、これもまたかいぼりと同じく、やり遂げた時の成果に期待が大きい。

新年度に待ち受ける未知の経験に備えた心で、澄んだ水をたたえた公園を再訪したい。
工学部第一部教養 教授 松本和子

Headline

- 02-03 特集 火災研究最前線
- 04-05 平成26年度入学式を挙る
- 06 平成26年度 予算
- 07 平成26年度 事業計画が決定
- 08 理科大ビジョン2014
- 09 Labo Scope
- 10-11 名誉教授称号授与/新任教員22氏紹介
- 12 優れた成果を挙げた学生を表彰
- 13 一般入試、過去36年間で志願者数が最高に
- 14 平成25年度 学位記・修了証書授与式を挙る
- 15 山口東京理科大学ニュース/諏訪東京理科大学ニュース
- 16 平成25年度経常費補助金

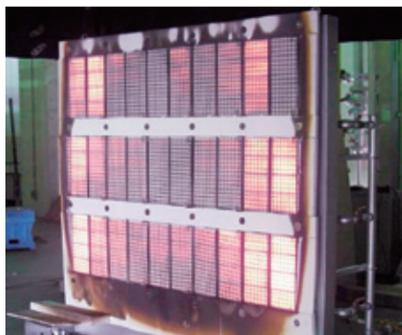
火災研究最前線



本学総合研究機構火災科学研究センターは、アジアにおける火災科学に関する教育研究拠点として、2008年に文部科学省グローバルCOEプログラムに採択され、以来アジアの火災リスクを抑制するために活動してきました。2010年には国際火災科学研究科も開設され、さらなる研究が進められている現在、火災科学研究の最前線をご紹介します。



火災科学研究センター実験棟の内部



ICAL試験装置(放射パネル)



コーンカロリメータ試験装置



ルームコーナー実験装置



火災時の煙の流れを測定する実験

東アジアの火災科学研究拠点として

火災科学研究センターが誕生したのは2004年4月。前年に文部科学省が推進する21世紀COEプログラムに「先導的建築火災安全工学研究の推進拠点」が採択されたのを契機として設置されました。その後5年間にわたるプログラムの成果が高く評価され、08年には「先導的建築火災安全工学の東アジア教育研究拠点」がグローバルCOEプログラムに採択。東京理科大学は、今、火災科学の研究教育拠点として新たな発展の黎明期を迎えています。その中核となる火災科学研究センターのセンター長、大学院国際火災科学研究科の研究科長を務める、辻本誠教授に聞きました。

「グローバルCOEプログラムが目指すのは、“火災科学・火災安全工学の発展”と“若手研究者や専門技術者の育成”です。つまり研究・教育の両面から社会的需要に応え、社会的貢献を果たすことが求められているのです。その背景には、アジア諸都市で火災リスクが急激に高まっている現状が挙げられ

ます。特に東アジアでは、日本がこれまで経験してきたよりも急激な都市化が進行し、石油化学素材等の燃焼を伴う近代都市施設の火災・爆発による重大な死亡・損害が多発し、巨大化する危険に直面しています。本学の火災安全工学に関わる教育研究分野は、この差し迫った事態に対処していく義務があり、同時に将来の火災事故の変質を予測し、それを防止するための革新的教育研究システムづくりに努めていくことが期待されています」

グローバルCOEプログラムでは、人材の育成に向けて教育の分野も拡充しています。2010年4月には、アジア初の火災科学専門大学院「国際火災科学研究科」も開設しました。

「教育分野では、一般学生のほか、社会人、留学生を対象に、高度な専門知識と技術を身に付けた建築防災、都市防災、消防防災のプロフェッショナルを育成します。具体的には①建築物を主とする火災安全評価・設計体系に精通し、ISOなどの国際基準

にも対応できる専門技術者の育成、②全国の消防官、火災予防に関わる行政担当者、保険料算定に関わる鑑定人のキャリアアップ、③母国の火災リスク抑制のため、火災予防技術や行政手法を学ぶ海外からの人材の育成を行っています。また昨年度からは、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受け、アジアの火災安全情報のネットワーク構築を行うことに重点を置き、アジア諸都市の火災リスク抑制を連携して実現する研究拠点として、21世紀の課題である科学のグローバル展開を実現していきたいと考えています」

グローバルCOEプログラムでは、このほかにも、中国、台湾、韓国、バングラデシュなどからの留学生受け入れ、国際シンポジウムの開催、国外の著名な研究者の招へい、国内外の研究者との交流計画など、活発な活動を展開しています。東アジアにおける火災科学ネットワークのハブとして、本学に世界の熱い視線が注がれています。



辻本 誠 (つじもと・まこと)
1974年東京大学工学部建築学科卒業。78年同大学院工学系研究科博士課程中退。建設省建築研究所、名古屋大学大学院工学研究科教授を経て2004年東京理科大学教授。2013年から総合研究機構火災科学研究センター長。

Research



火災現場の救助・消火活動をサポートする技術

松山賢 准教授

火災現場では、大量のすすや黒煙によって視界が遮られ、迅速な消火・救助活動を妨げる事態がしばしば発生します。このため、煙の中でも現場の状況を正確に把握できる技術の実用化が強く求められてきました。

こうした状況を背景に、火災科学研究センターの松山賢准教授は、電磁波の一種である「テラヘルツ波」を利用したイメージング技術の応

用により、火災現場における視認性を高めるための研究を行っています。

「テラヘルツ波は、光と電波の中間に位置する電磁波で、両者の特徴である空間分解能力と物質透過能力を併せ持っています。開発が立ち遅れていたが、近年急速な発展を遂げ、さまざまな分野で、新たな利用技術の研究が進められています」

テラヘルツ波は、赤外線や可視光に比べ波長が長いので、大気中のちり、すす、煙、炎などによる散乱が少ないという特性を持っています。この特性を利用して、火災現場という過酷な環境下での視認性を高めるのが狙いです。

「“テラヘルツカメラ”の技術は、すでに開発されています。ただ、現在のカメラは、被写体の熱放射を可視化するパッシブ方式が主流です。火災現場には高温の物質や煙が充満していますから、その熱放射が邪魔になって、クリアな画像を得ることができません。そこで、カメラ側から強いテラヘルツ波を照射し、被写体に反射したテラヘルツ波をカメラでとらえるアクティブ方式にすることで、より明瞭な画像を撮影しようというわけです。わたしたちは、この“照明用テラヘルツ波発生器”の開発を目指しています。一般のカメラにおけるフラッシュの役割を果たす装置と考えれば、わかりやすいでしょう」

現在、高層ビルはインテリジェント化されており、防災センターなどでは、監視カメラの映像を常時モニター監視しています。この監視カメラに、テラヘルツカメラと照明用テラヘルツ波発生器を併設すれば、火災現場で逃げ遅れた人などをいち早く発見することが可能になると考

えています。また将来的には、小型化して消防隊員のゴーグルに装着することで、スピーディーかつ安全な消火・救助活動に貢献することが期待されています。

さらに松山准教授は、テラヘルツ波を活用して、離れた場所から有毒ガスの存在を検知するガスセンシング技術も研究中です。

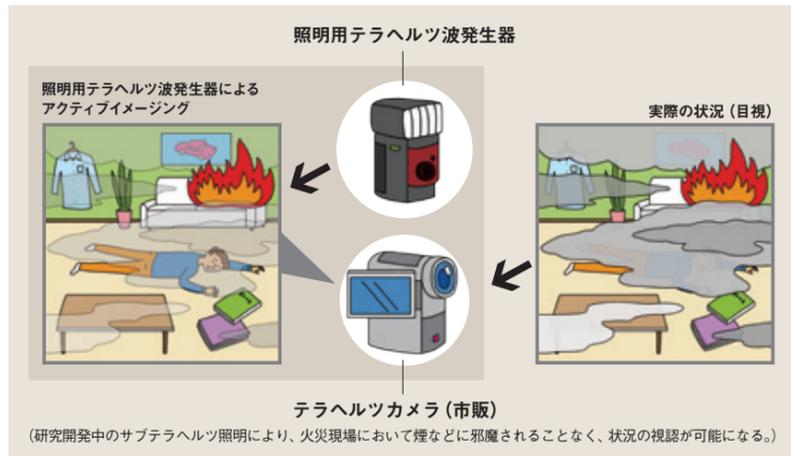
「この技術を利用すれば、火災現場に足を踏み入れる前に危険なガスを検知できるようになり、現場に突入できるかどうかの判断が容易になります。そのため、火災現場で救助活動にあたる消防隊員の二次災害リスクを大幅に軽減できるのです」

災害現場での救助・消火活動を強力にサポートするこの技術、実現に向けて期待が高まっています。



松山賢 (まつやま・けん)

1994年東京理科大学理工学部建築学科卒業。96年同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。同大学講師を経て2010年より准教授。



(研究開発中のサブテラヘルツ照明により、火災現場において煙などに邪魔されることなく、状況の視認が可能になる。)

Research



関東大震災被害映像の分析

辻本誠 教授

今年3月、辻本教授らのプロジェクトチームは、関東大震災の動画映像と火災の延焼動態をリンクさせた「関東大震災マップ&映像」を作成させました。

1923年、東京市内で5万8,000人以上の死者を出した関東大震災。そのうち焼死者は約9割に達しています。完成した「関東大震災マップ&映像」は、当時の人々が、火災の中でどのように行動したかを示す貴重な研究資料です。

辻本研究室では、関東大震災から90年経った昨年、東京国立近代美術館フィルムセンターなどから映像資料の提供を受け、その分析に取り組みました。

「関東大震災時に撮影された動画映像は、これまでもメディアなどでたびたび紹介されてきましたが、その映像が、いつ、どこで撮影されたものが特定されていないため、分析には使われてきませんでした。そこで今回は、人の動きや流れなど、静止画からは読み取れない情報を資料として活用できるようにするため、現存する動画フィルム内の場面特定と情報整理を試みまし

プロジェクトチームは、提供されたフィルム767シーンについて、それがどの地点からどの方向に向かって撮影されたのかを詳細に分析。その作業は困難を極めました。

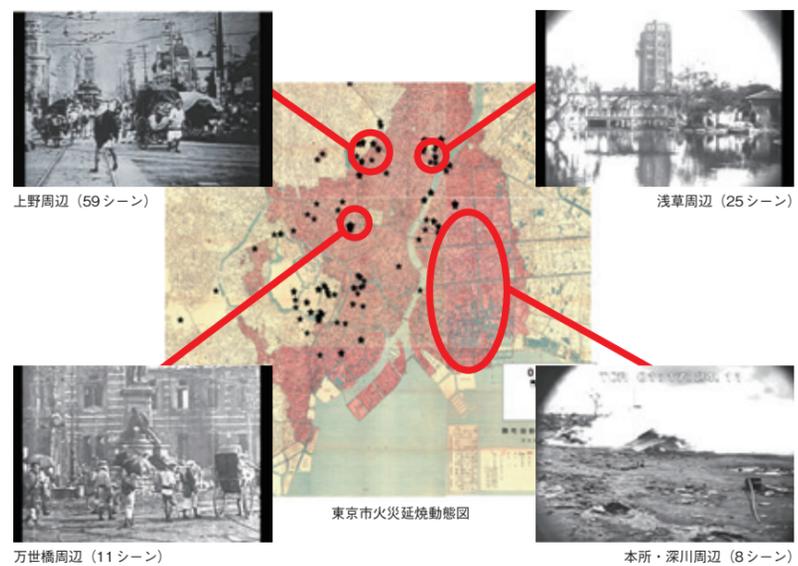
「東京の歴史に詳しい3人のスタッフが、映像に映っている電柱や商店の看板などを手がかりに都内を歩き、現存する風景と照合・同定する作業を徹底的に行いました。そして学生3人が、それを丹念に地図に落とし込んだ。まさに、足で稼ぐ研究成果といえるでしょう」

こうした地道な作業の結果、提供されたフィルムのうち490シーンについて、撮影場所を確定することができました(2014年2月現在)。

「関東大震災直後に『震災予防調査会』(当時の文部省所轄の地震・震災に関する研究機関)が作成した『東京市火災延焼動態地図』には、地震発生直後の13時から46時間にわたって、出火地点や飛火した場所、そこからの火災の燃え広がり方が、時間の経過とともに示されています。これに今回の調査結果を重ね合わせることで、延焼現象をより詳細に分析できただけでなく、延焼現象と人々の避難行動の関係を明ら

かにできるのです。今回の調査結果は、他の防災研究グループにとっても貴重な研究資料となることでしょう。多くの研究者がこの成果を公

開し、内容を充実させるための作業を続けたいですね」



火災科学研究センター 実験棟

2005年3月、野田キャンパス内に竣工。大学に付属する火災科学研究専用施設としては世界トップレベルの規模と機能を持つ。大規模実験室には、集煙フード、耐火炉をはじめ、火災研究を実施する上で不可欠な設備を配置。建築構造物の部材・架構を実規模で載荷しながら実施する構造耐火試験、オフィスなどを再現した実空間内の可燃物什器類の火災性状、アトリウムなどの大空間内の煙流動性状、さらには自動車の燃焼性状など、大規模空間を生かした実験が可能。



グローバルCOEプログラムとは

グローバルCOEプログラムは、2002年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、日本の大学院の教育研究機能をいっそう充実・強化し、国際的に卓越した研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とする事業のこと。

平成26年度
入学式を
挙行
welcome!

平成26年度の入学式が、4月9日(水)、日本武道館(東京都千代田区)において挙行されました。学部生、大学院生合わせて約5,700人の新入生を迎えた会場は晴れやかな笑顔で満たされました。

中根滋理事長は新入生に英語で祝辞を述べ、本学の卒業生・ビジネスプロフェッショナル・理事長という異なる立場から、「理科大の厳しい卒業認定の環境のなかで成長すること・グローバルで競争的な環境に飛び込むこと・エベレストを目指して“lchi-ban”になることの3つに重きを置いて、日々楽しみながら勉強・研究をするという気概を持ち続けて欲しい」と新入生を鼓舞しました。

また、昨年度に続き、本学のイメージキャラクターである「坊っちゃん」「マドンナちゃん」が登場。本学学生団体である「I部体育局 舞踏研究部」、「II部体育会 舞踏研究部」、「アカペラサークル PE-RAPPELLA (ペラペラ)」によるパフォーマンスも行われました。



新入生の皆さんへ

「多くの体験を通して、本当の実力を

本日ここに、多数のご来賓の皆さまならびに関係各位のご臨席のもと、平成26年度東京理科大学入学式を挙行するにあたり、学長として皆さまにお祝いのごあいさつを申し上げます。

新入生の皆さん、大学院、専攻科に進学された皆さん、ご入学、ご進学まことにおめでとうございます。また、学生の皆さんを今まで支えてこられたご家族の方々にも心からお慶びを申し上げます。

東京理科大学の淵源は、今を遡ること133年、明治14年(1881年)に設立された「東京物理学講習所」という小さな専門学校にあります。創立に携わったのは、当時、東京大学理学部物理学科を卒業したばかりの20代半ばの21人の若い理学士たちでした。この方々を中心に、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」との建学の精神のもと、設立から2年後の明治16年(1883年)に「東京物理学校」への改称を経て、多くの困難を克服し、多大の努力を払い学校を維持・運営しました。

わが国が近代化を成し遂げた明治から大正にかけて、当時のエリート養成学校である、全国の師範学校と中等学校の数学、物理学、化学の教員のうち、実に半数以上を物理学校の卒業生で占めていました。このことは、まさに、建学の精神を体現したものといたします。夏目漱石の小説『坊っちゃん』の主人公の数学の先生も

物理学校出身となっています。

また、物理学校は、真に実力を付けた者しか卒業させなかったことから、「実力主義」の学校として定評があり、東京理科大学となった今日でもその伝統を受け継いでいます。

第二次世界大戦後に行われた学制改革に伴って、「東京物理学校」は「東京理科大学」となりました。理学部にくわえて、薬学部、工学部、理工学部、基礎工学部、経営学部が新設され、また、大学院研究科も設置されました。今日では学部では8学部33学科、大学院では11研究科31専攻という私学屈指の理工系総合大学として発展し、東京理科大学となってから18万人以上の卒業生を輩出してきました。

卒業生は、物理学校以来の伝統を受け継ぎ、全国の高等学校などで優れた理数教員として教鞭をとっているほか、科学者、研究者および技術者として日本はもとより、世界各地で活躍されています。

本日、皆さんは、このような輝かしい本学の歴史を受け継ぐ主役となりました。ぜひとも悔いのない有意義な大学生活を過ごしてください。

さて、これから、大学生活を送るにあたって自らを高めるために、皆さんに心がけてほしいことを4点お話ししたいと思います。

第一に、良い本を静かにじっくりと読むように心がけ

てください。今までは受験勉強のためゆっくりと本を読むことができなかった人もいることと思います。

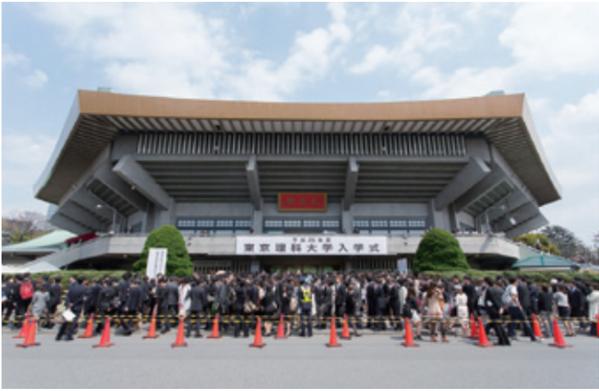
今年は夏目漱石の名著『こころ』の出版100周年に当たります。この『こころ』を始め、マイケル・ファラデーの『ロウソクの科学』、ジェームス・ワトソンの『二重らせん』、あるいはリチャード・バックの『かもめのジョナサン』などを読むことをお勧めします。

本学は、皆さんが勉学に励むとともに、ゆっくりと読書ができるように図書館を整備しています。さらに、父母会であるこうよう会のご援助も受け、ブルーバックスをはじめとする新書を集めた新書文庫も神楽坂、野田、葛飾キャンパスに設けています。

皆さんは、これから授業を通じて専門的な知識を高めていきますが、くわえて、図書館等を活用して、多くの本を読み、教養を高めてください。

第二に、皆さんは理科を校名につけた東京理科大学に入学されました。理科は本当に面白いものです。皆さんも身の周りのさまざまな現象をこれから勉強する知識を使って説明するように努めてみてください。これから勉強することが一層面白くなってきます。

私は全国の高校を訪問して理科のおもしろさを伝えるため、多数の出前授業を行っています。その時にお話しすることの一つが身の周りにある現象を科学的に説明することの楽しさです。例えば救急車が近づいてくると



身に付けてほしい」

きのサイレンの音は大きいのに、走り去ると急に音が小さくなるのは、波の持つ特徴であって、ドップラー効果として知られていることは皆さんもご存知のとおりです。身の周りには科学的に説明すると、さらに興味がわいてくることが多くあります。なぜ空は青く、夕焼けは赤いのか、なぜ雲は白いか、虹が出るのはどのような条件がそろった時なのか、などです。

虹の詩として、つい最近104歳で亡くなった童謡の作詞家のまごみちおさんの「虹」という詩があります。このすばらしい「虹」の詩に、美智子皇后陛下が英語の訳を付けておられます。わたしも読んで感動しました。昨年6月に出版された本です。ぜひ皆さんも読んでみてください。

また、虹といえばニュートンが有名です。1642年生まれニュートンが1666年の23歳のとき、初めて太陽のスペクトルをプリズムで分けた実験が知られていますが、ニュートンが虹のでき方についても詳しく調べています。例えば岩波文庫から出版されているニュートンの著書である『光学』に、前方でわか雨が降っていて、後方から太陽の光がさしている時に虹ができ、その角度も40度と42度のあいだにできると書かれています。虹が7色であることもニュートンがその書物に書いています。

皆さんもぜひ身の周りのさまざまな自然現象にも関心

を持ち、その科学的説明ができるように努めてください。

第三に、実用に耐える英語力を身に付けてください。皆さんが想像する以上の速さで、グローバル化は進展しています。ビジネスの世界、研究の世界、どのような場面においても、世界中の人たちとコミュニケーションを取り、または、競争していかなければならない時代がもうきています。

これからは、英語の力が不可欠になります。英語を聞き、話せるようになるには、継続するしか方法はありません。授業科目の中でもネイティブの先生方の少人数クラスがありますが、皆さんも授業で学習するだけでなく、自ら進んで英語力を身に付けるよう、継続的に努力してください。

第四に、皆さんはこれから本学での授業を受け、専門的な知識を身に付けていきます。この勉学こそ一番重要なことですが、それ以外のことに積極的に取り組み、多くの人と接してください。スポーツや文化系のクラブ活動に積極的に参加するのもよいでしょう。

多くの人と接することで、皆さんはさまざまな考え、さまざまな視点を身に付けていきます。また、物事を楽観的、前向きに考えるプラス思考を身に付けることもできるでしょう。

さらに、クラスの友人に加えて、多様な場で多くの友

学長

藤嶋 昭



人をつくってください。このようにしてできた友人は、一生の友人になるものです。

以上4点お話ししましたが、皆さんにはこれから過ごす大学生活で、多くの体験を通して、人間的に成長し、本当の実力を身に付けていただきたいと願います。

昨年度、本学は新たに学園パーク型キャンパスとして、葛飾キャンパスを開設することができました。今後も一層大学の設備や環境を充実させるとともに、教育内容の向上に努め、皆さんが本当の実力を付けることができるよう教職員が一丸となって最大の努力をしていきます。新入生の皆さんがこれから本学で過ごす年月は、長いようでも後から振り返ってみると短いものです。

東京理科大学初代学長の本多光太郎先生は「今が大切」ということを繰り返し話されていました。一日、一日を大切に過ごすが、皆さんの人生を豊かにするものと信じます。

終わりに、あらためて入学、進学した皆さんをお祝いするとともに、最も輝かしい青春のこの時期を思う存分満喫し、悔いのない学生生活を送っていただくことを願い、式辞といたします。

平成26年4月9日 東京理科大学長 藤嶋 昭

Finance 平成26年度 予算

平成26年度は、理科大中長期計画「2020年の理科大のあるべき姿」の実行初年度として、「日本の理科大から世界の理科大へ」の目標実現に向け、予算編成を行いました。

安定した財政基盤構築のため、資産運用方法を自己運用から外部委託に変更し運用益の増収を図る一方、新たな財務システムおよび経営分析システムの導入により、グローバル競争力の強化、学内組織の業務統制強化を図ります。

なお、重点項目として次のことを盛り込みました。

- 東日本大震災に伴う経済支援
- VLE (Virtual Learning Environment) の構築および全キャンパス無線LAN化
- 研究開発プロジェクト
 - 【新規】
 - ① トランスレーショナルリサーチセンター
 - 【継続】
 - ① グリーン&セーフティ研究センター
 - ② 戦略的物理製剤学 研究基盤センター
 - ③ RNA科学総合研究センター
 - ④ 戦略的環境次世代健康科学 研究基盤センター
 - ⑤ 先端ホログラフィ技術 研究開発センター
 - ⑥ キラリティー研究センター
 - ⑦ 火災科学研究センター
 - ⑧ ヒト疾患モデル研究センター

上記経費を文部科学省が行う「戦略的研究基盤形成支援事業」の対象経費とし、研究設備整備費等補助金および経常費補助金(特別補助)を予算措置します。
- 野田地区11号館改修工事
- トライボロジーセンター設立 (地域オープンイノベーション 促進事業(経済産業省))
- 本学のリソースが活用できる領域の収益事業化およびこれを事業内容とする子会社の設立

なお、本年度消費収支予算では、帰属収支差額が6,154万円のマイナスとなります。経費削減をさらに進め、より一層の効率的予算の執行が求められます。一方、資金収支予算では、前年度と比較して次年度繰越支払資金35億4,706万円の減少が見込まれます。

資金収支予算書における前年度繰越支払資金および消費収支予算書における前年度繰越消費支出超過額は、平成25年度決算確定前の予算額に基づいています。(詳細は、7月ごろ本学ホームページに掲載予定)

●資金収支予算書 平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

収入の部 (単位：千円)		支出の部 (単位：千円)	
科目	26年度予算額	科目	26年度予算額
学生生徒等納付金収入	25,919,366	人件費支出	16,797,149
授業料収入	16,544,601	教員人件費支出	10,499,994
入学金収入	2,655,925	職員人件費支出	5,432,636
実験実習料収入	1,561,920	役員報酬支出	176,920
施設設備資金収入	5,156,920	退職金支出	687,599
手数料収入	1,797,700	教育研究経費支出	10,085,348
入学検定料収入	1,749,542	消耗品費支出	2,060,385
試験料収入	7,600	光熱水費支出	1,699,895
証明手数料収入	20,900	旅費交通費支出	715,903
大学入試センター試験実施手数料収入	19,658	奨学費支出	317,245
寄付金収入	293,700	福利厚生費支出	93,012
特別寄付金収入	293,700	通信運搬費支出	130,400
補助金収入	4,376,574	印刷費支出	296,176
国庫補助金収入	3,996,070	広告費支出	1,482
地方公共団体補助金収入	375,904	会議費支出	2,111
学術研究振興資金収入	500	賃借料支出	251,534
その他の補助金収入	4,100	修繕費支出	673,403
資産運用収入	659,923	諸会費支出	106,350
第3号基本金運用収入	15,000	公租公課支出	746
受取利息・配当金収入	545,873	報酬・委託・手数料支出	2,401,113
施設設備利用料収入	99,050	保守料支出	454,702
資産売却収入	10,000,000	資料費支出	786,953
有価証券売却収入	10,000,000	雑費支出	93,938
事業収入	1,700,367	管理経費支出	3,197,699
受託事業収入	1,530,671	消耗品費支出	66,941
知的財産権実施料等収入	46,000	光熱水費支出	162,671
公開講座受講料収入	115,343	旅費交通費支出	73,889
免許状更新講習料収入	8,353	福利厚生費支出	45,162
雑収入	937,872	通信運搬費支出	103,749
入学要項売上収入	12,900	印刷費支出	140,792
私立大学退職金財団交付金収入	432,011	保険料支出	19,419
その他の雑収入	492,961	広告費支出	215,969
前受金収入	6,035,584	渉外・会議費支出	20,159
授業料前受金収入	2,474,517	賃借料支出	216,641
入学金前受金収入	2,655,925	修繕費支出	115,929
施設設備資金前受金収入	753,920	諸会費支出	17,454
その他の前受金収入	151,222	公租公課支出	101,151
その他の収入	2,331,883	報酬・委託・手数料支出	1,596,654
退職給与引当特定資産からの繰入収入	911,565	保守料支出	147,762
施設拡充引当特定資産からの繰入収入	200,000	資料費支出	91,752
前期末未収入金収入	976,486	入学検定料免除額支出	11,071
貸付金回収収入	243,832	雑費支出	50,534
資金収入調整勘定	△7,857,408	借入金等利息支出	367,216
期末未収入金	△967,180	借入金利息支出	367,216
前期末前受金	△6,890,228	借入金等返済支出	890,880
前年度繰越支払資金	27,014,815	借入金返済支出	890,880
収入の部合計	73,210,376	施設関係支出	933,410
		建物支出	437,733
		構築物支出	55,677
		建設仮勘定支出	440,000
		設備関係支出	1,461,006
		教育研究用機器備品支出	1,322,880
		その他の機器備品支出	24,233
		図書支出	113,893
		資産運用支出	15,375,354
		有価証券購入支出	200,000
		特定金銭信託支出	14,100,000
		退職給与引当特定資産への繰入支出	910,714
		施設拡充引当特定資産への繰入支出	164,640
		その他の支出	2,566,264
		貸付金支払支出	329,560
		前期末未払金支払支出	2,021,704
		前払費用支出	215,000
		予備費	300,000
		資金支出調整勘定	△2,231,704
		期末未払金	△2,021,704
		前期末前払費用	△210,000
		次年度繰越支払資金	23,467,754
		支出の部合計	73,210,376

●消費収支予算書 平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

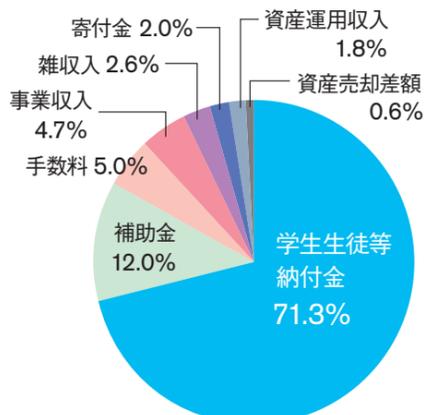
消費収入の部 (単位：千円)		消費支出の部 (単位：千円)	
科目	26年度予算額	科目	26年度予算額
学生生徒等納付金	25,919,366	人件費	16,589,582
授業料	16,544,601	教員人件費	10,499,994
入学金	2,655,925	職員人件費	5,432,636
実験実習料	1,561,920	役員報酬	176,920
施設設備資金	5,156,920	退職金	305,880
手数料	1,797,700	退職給与引当金繰入額	174,152
入学検定料	1,749,542	教育研究経費	15,168,505
試験料	7,600	消耗品費	2,060,385
証明手数料	20,900	光熱水費	1,699,895
大学入試センター試験実施手数料	19,658	旅費交通費	715,903
寄付金	743,032	奨学費	317,245
特別寄付金	293,700	福利厚生費	93,012
現物寄付金	449,332	通信運搬費	130,400
補助金	4,376,574	印刷費	296,176
国庫補助金	3,996,070	広告費	1,482
地方公共団体補助金	375,904	会議費	2,111
学術研究振興資金	500	賃借料	251,534
その他の補助金	4,100	修繕費	673,403
資産運用収入	659,923	諸会費	106,350
第3号基本金運用収入	15,000	公租公課	746
受取利息・配当金	545,873	報酬・委託・手数料	2,401,113
施設設備利用料	99,050	保守料	454,702
資産売却差額	228,400	資料費	786,953
不動産売却差額	228,400	雑費	93,938
事業収入	1,700,367	減価償却額	5,083,157
受託事業収入	1,530,671	管理経費	3,900,956
知的財産権実施料等収入	46,000	消耗品費	66,941
公開講座受講料収入	115,343	光熱水費	162,671
免許状更新講習料収入	8,353	旅費交通費	73,889
雑収入	937,872	福利厚生費	45,162
入学要項売上収入	12,900	通信運搬費	103,749
私立大学退職金財団交付金	432,011	印刷費	140,792
その他の雑収入	492,961	保険料	19,419
帰属収入合計	36,363,234	広告費	215,969
基本金組入額合計	△1,598,396	渉外・会議費	20,159
消費収入の部合計	34,764,838	賃借料	216,641
		修繕費	115,929
		諸会費	17,454
		公租公課	101,151
		報酬・委託・手数料	1,596,654
		保守料	147,762
		資料費	91,752
		入学検定料免除額	11,071
		雑費	50,534
		減価償却額	703,257
		借入金等利息	367,216
		借入金利息	367,216
		資産処分差額	98,512
		不動産処分差額	7,312
		動産処分差額	91,200
		予備費	300,000
		消費支出の部合計	36,424,771
		当年度消費支出超過額	1,659,933
		前年度繰越消費支出超過額	13,039,929
		翌年度繰越消費支出超過額	14,699,862

●収益事業会計予算書

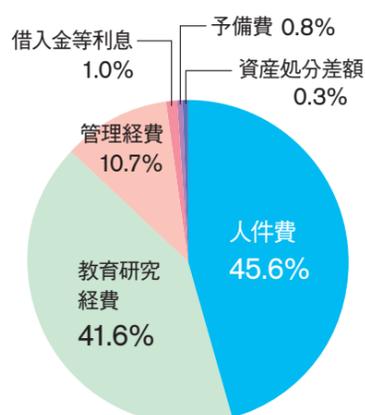
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：千円)	
科目	26年度予算額
営業収益	
建物賃借料収入	51,506
営業収益合計	51,506
営業費用	
委託費	1,400
修繕費	129
保守費	289
損害保険料	125
公租公課	20,720
賃借料	2,888
減価償却費	47,433
消耗品費	42
営業費用合計	73,026
営業利益	△21,520
営業外収益	
受取利息	3
営業外収益合計	3
経常利益	△21,517
学校会計繰入支出	0
税引前当期純利益	△21,517
法人税、住民税および事業税	0
当期純利益	△21,517
前期繰越利益	△35,479
次期繰越利益	△56,996

〈平成26年度帰属収入の内訳〉



〈平成26年度消費支出の内訳〉



Plan

平成26年度 事業計画が決定

日本の将来

昨今、アベノミクスで日本の産業が再び強い成長意欲を持ち景気が上向き、加えて2020年の東京オリンピック開催決定でわが国にも明るさが戻りつつある。しかし、改めて将来を展望すると日本経済・企業・子どもたちにとって厳しい状況がそこにはある。2100年へ向かっての日本を待ち受ける大きな課題の一つは人口の大幅な減少である。中庸的な予測でも、2100年には今の人口がほぼ半減してしまうという。二つ目は世界における日本経済の地盤沈下である。2000年においては世界の先進国における日本のGDPシェアは16%であったが、2050年にはわずか4%にまで落ちていくという予測もある。代わってシェアを伸ばすのは、BRICsやN-11諸国である。日本の若者はこの厳しい状況と向き合っていかなければならない。

企業の成長投資は、BRICsといった世界でGDP成長率の高い国に照準を合わせる。理科大学の卒業生が就職先を求めるとき、半数以上が国外に市場を求める企業である時代がそこまで来ている。国内ではどうか。国内の成長機会はテクノロジーの高さを生かした最先端技術分野、最先端ソリューション系分野にある。Double-Degree拡張知識をもって、高い知識、技術を目指し、世界を一つの乗り物のように若者がビジネスに携わっていくようになるであろう。

“世界の理科大”を目指して

本学は2014年度に創立133年を迎えるが、建学の精神に軸足を置きながら、大転換期を迎えた日本の高等教育のうねりの中で、「日本の理科大から世界の理科大」を目指していく。2014年度から2019年度までの6カ年の中長期計画「2020年のあるべき姿」を策定し、2014年度はその実行初年度となる。

世界における経済、知識、研究最先端等の競争に勝つ力、すなわち国際競争力の向上が国際化である。本学は国際競争力の向上に取り組み、「魅力あるグローバルな頭脳循環拠点としての理科大」を目指すこととした。大学の魅力とは世界の最優秀若手諸君をして、自ら理科大を選ばせるに足る理科大学の教育・研究両分野における総合的な力である。国際競争力の向上のために4つの柱を掲げた。「教育の革新」では、何を、どのように、誰が、どこで教えるか。「先端科学研究の世界的卓越性」では、医療、農水、環境・エネルギーの3領域に研究テーマを絞り、従来とは異なった観点、発想、手法、技術を用いて学際的研究を行い、多様な成果を複合的にとらえて多面的に解釈することによって体系的な知識として整理するとともに、包括的な応用戦略を提示する。「女性の活躍の徹底推進」では、学生、科学者、先生、プロフェッショナル、経営者としての女性活躍推進の実現を目指す。「リサーチビジネス事業の卓越性」では、産学公金世界連携の推進を目指す。

1. 学校法人東京理科大学

～日本の理科大から世界の理科大へ～

【国際競争力の向上】

- ・理大アジア校構想 (TUS ASIA HUB) 策定
- ・学生全員米国体験構想 (Mass Exchange Student) 策定

【ガバナンスの改善】

- ・東京理科大学長への経営資源の大幅な権限委譲

【人事】

(教員)

- ・採用責任・方法、昇任人事要件の明確化
- ・研修制度、評価システムの充実

(事務職員)

- ・事務組織の見直し・改編
- ・給与体系等の見直し、女性の登用、管理職適正配置

【収益事業】

- ・本学のリソースが活用できる領域の収益事業化
- ・TUSグループホールディングス(仮称)の設立

【財務】

- ・授業料一部値上げ、収益事業の強化等の収入増加策の実施
- ・資産運用方法の自己運用から外部委託への変更
- ・新たな財務システム、経営分析システムの導入

【施設・設備】

- ・野田キャンパス11号館改修工事
- ・野田キャンパス3号館改修工事に向けた設計の着手

【事業継続性レビュー】

- ・教育・研究事業に対する定期的なレビューの実施
- ・定員割れが続く山口東京理科大学、諏訪東京理科大学への抜本的な対策検討

2. 東京理科大学

【教育】

- ・教養教育の充実に向けた取り組み
- ・「TUSオリジナル教科書」の作成着手
- ・「TUS 6年一貫モデル(学部4年+大学院修士2年)の構築に向けたカリキュラムの見直し
- ・ICT環境の整備
- ・卒業生の質保証システムの構築に向けた取り組み
- ・総合教育機構教職支援センターの組織および構成の見直し

【研究・産学公連携】

- ・「研究戦略中期計画」の策定
- ・研究戦略・産学連携センターの設置
- ・「国際先端研究院」設立に向けた準備活動

【人材】

- ・世界トップレベルの研究者の招へい、女性教員、外国人教員の積極的採用
- ・若手研究者のキャリアアップ制度確立の検討
- ・嘱託助教の現行制度の見直し

【教育・研究組織】

- ・2016年4月の工学部、経営学部再編に向けた具体的実施計画の策定

4. 諏訪東京理科大学

【教育・研究】

- ・工学部(機械工学科、電気電子工学科、コンピュータメディア工学科)の開設
- ・経営情報学部の中長期計画に基づく教育体系の改革
- ・主体的な学びを促進する環境整備(学修ポートフォリオの活用、学習支援室の充実等)

【学生支援】

- ・海外インターンシップの準備開始

3. 山口東京理科大学

【教育・研究】

- ・1年次基礎教育の充実
- ・教育開発センターの設置
- ・学部教育と連携した大学院教育の充実

【学生支援】

- ・1年次前期に履修する「キャリア基礎」の必修化
- ・学生が出身地域に就職できる仕組みづくり

【施設・設備】

- ・5号館の空調設備の更新、学生用トイレの改修

【地域貢献】

- ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」への申請
- ・私立大学等教育研究活性化設備整備事業の活用

【管理運営】

- ・学部長の設置、補職や委員会体制の見直し

理科大ビジョン2014

中根理事長に聞く



このたび、学校法人東京理科大学は、「理科大ビジョン2014—未来への約束めざせ エベレスト!」と題し、以下のとおり世界で最も魅力的な大学になるための5つのビジョンを設定しました。

1 何を学べる大学か?

International Professional になるための、科学の基礎的知識や社会・産業のニーズを捉えた専門知識だけでなく、世界でリーダーシップを発揮できる人材になるための教養(ここでいう教養とは、幅広い知識を指す教養、精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力を意味します)を学べる大学です。クラブ活動やボランティア活動などへの積極的な参加を奨励し、人と人の絆や自らの内面を磨くことの大切さを学べる大学です。

将来は、より充実した研究環境を整えるために、学部生よりも大学院生が多い大学を目指します。具体的には、学部生40%、大学院生50%(修士課程30%、博士課程20%)、ポスドク研究員10%を目標にします。

2 どのような教員がいて、どのような教育・研究を行っている大学か?

教育面では、卒業生が「自分はこの先生に教えてもらった」と自慢できるような教員がどの学部・学科にもいるような、とにかく教えるのが世界一まい大学を目指します。

研究面では、教員が自分の専門領域にある問題点をよく把握し解決のために努力を惜みず、また関連する産業の将来ビジョンを持ち、学生と共に融合先端学問領域の研究に熱心に取り組む大学を目指します。また、世界最先端の研究を行って、ノーベル賞を本気で目指している教員が多く、研究成果による収益事業が盛んに行われている大学を目指します。

これらの教育・研究活動による成果として以下の5つを目標に挙げます。

- ① 教員輩出数No.1の大学
- ② 就職率 No.1の大学
- ③ 海外企業求人人気No.1の日本の大学
- ④ 理系企業トップマネジメントTop-5に入っている大学
- ⑤ 卒業してから一生つきあえる大学

3 どのような文化・経営方針の大学か?

スタッフ:スタッフをととても大切に、人材の教育・研修に常に投資します。特に、教育、研究、教員の能力開発(FD)に重点的に投資し続けます。これにより、Professionalismの強いスタッフにあふれ、女性にも若手にも十分な自己実現のチャンスがあり、海外の教育者、研究者がぜひ就職したいと思う大学を実現します。

組織体制:自由闊達でありながらTUS チームとしての協力・協調の姿勢にあふれるスタッフが多く、理事会(理事長・理事)、学長室(学長・副学長)、学部長、教授会に深い相互信頼の絆がある体制を築きます。

また、次の4つの実施体制を構築し、世代間の公平性を担保することで、産業・企業・国家がR&D パートナー(収益事業)に指名したい大学を目指します。

- ① 組織マネジメント階層ごとに「目標」、「評価指標」、「結果責任」、「権限の範囲」が明確に規定されている。
 - ② 中期計画をもとに実行計画が策定され、予実管理をもって経営・執行がlean & speedyに行われ、結果として「あるべき姿」が着実に実現され、進歩し続ける。
 - ③ 意思決定のための情報、意思決定までのプロセス、そして意思決定には常に透明性があり、コンプライアンスと情報・プライバシー管理を徹底している。
 - ④ World-classなマーケティングとブランディングを行っている。
- なお、出口の見えない不採算事業は継続することなく、予算、資源、権限、組織、人事、法人経営、大学業務執行のあらゆる面を、特定の人物が私物化する心配のない経営を行います。

キャンパス:教育と研究を効率よく行える、機能的でグローバルスタンダードに準拠した、最先端ICT環境やTeaching-Wareが常に更新されているキャンパスにします。

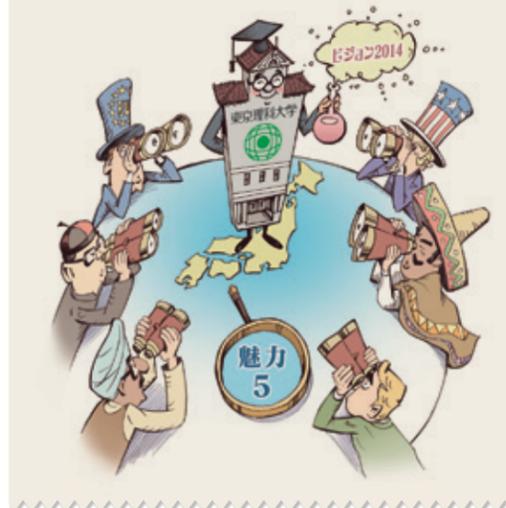
4 校友・父母と、どのような関係を築いている大学か?

大学は校友会である「理窓会」の活動を一生懸命支援し、また卒業生は母校と後輩の将来を一生懸命支援するような関係を築きます。

卒業生は「本学の卒業生であること」を誇りに思い、父母は「子どもが本学に通う、あるいは本学を卒業したこと」を誇りに思い、子どもたちは「親が卒業した本学に入りたい」と思う大学を目指します。

5 一言でいうとどんな大学か?

世界が一目置く大学



今回、中根滋理事長にこのビジョンを作った理由、

理事長インタビュー

そしてこのビジョンにかける思いを聞きました。

東 京理科大学は、今年で創立133年を迎えました。これまでの理科大は、日本の国内成長と同期するように成長してきましたが、世界が国境を越えて一つのグローバルな経済体になろうとしている今、理科大も「世界の理科大」にならなければならないと考えています。そのために充実した研究設備と優秀な教員、スタッフを準備していきたいと考えています。

教育・研究活動による成果として、目指すことは5つあります。「教員輩出数No.1の大学」「就職率No.1の大学」「海外企業求人人気No.1の日本の大学」「理系企業トップマネジメントTop-5に入っている大学」「卒業してから一生つきあえる大学」です。そしてこの5つの目標を達成するために、創立以来初めてとなる「中長期計画」を策定しました。8つの学部と11の研究科の部局長が中心となって、将来あるべき理科大の姿を半年かけて練りあげています。今後はこの計画を毎年見直ししながら、目標達成への取り組みを進めていきます。

大学の生命線としての最たるものは、教員です。「世界の理科大」となるために、教員は古い教材を繰り返し使うことなく、社会や産業のニーズをとらえた授業を行い、自らが研究に没頭する姿で、学生を感動させることが大切です。それには教員が研究者として社会で“現役”である必要があると考えています。教員の方々には、国内に留まることなく世界に飛び出し、競争というファクターに曝されながら、切磋琢磨していくことを望んでいます。そして学生が「この先生に学びたい」と思い、「あの先生に教えてもらった」と自慢できるような、オリジナリティーのあるティーチング・メソッドロジーを持つ教員を配することで、理科大は「教えるのが世界一まい大学」となることを目指していきます。

こうした魅力的な教員を揃えるために、今後は国内だけでなく、世界中から教員を求めることになるでしょう。国際的な大学となるわけですから、スタッフはもちろん、学生も高い語学力を身に付けることは、

もはや必須だと思います。

大学の体制の変革としては、これまでの学部縦割りの「昭和モデル」からCROSS DISCIPLINEへと、いわゆる学部間の融合を求めていきたいと考えています。例えば先端医療工学——医療と理科大が持つサイエンスの融合、また農業や漁業、代替エネルギーなどの環境分野、災害対策、宇宙開発など、科学の力による発展が期待される多種多様な分野に関して、理科大が主導してイノベーションを進めていきたいと考えています。

さらには機構改革も進めていきます。これまで理科大はさまざまな意思決定を理事会で行ってききましたが、世界と伍するためにはスピーディーな意思決定が重要になってきます。そこで教育と研究に関しては、学長に権限と責任をセットで委譲しました。これによって風通しが良くなり、透明度も高く、また意思決定も早く行われるようになるので、大変前評判が良いようです。そして理科大の学生は国際的な・プロフェッショナルとな

ることを目指し、将来は世界を舞台として活躍していく人になってもらいたい。それには、卒業する前に1年程度は外国で勉強してもらいたい。そのための教育機関として大学は、優秀な教員を世界中に求めていきますし、また学生も世界中から集まって来るような、教育・研究・社会貢献で「世界が一目置く大学」を目指していきます。今、先進国から、日本の大学に留学してくる人はかなり少ないのが現状です。これはうれうべき事態ではないでしょうか。山に例えるならエベレストのように、世界に冠たる大学となって、アメリカのMITやカリフォルニア工科大学のように多くの人が、この大学で学びたいと憧れるような大学になる。そこまでの道のりは険しいかもしれませんが、達成できない目標ではないと思っています。

約18万人いる卒業生の存在を背中に感じながら、現在勉強している2万人の学生の将来を思いつつ、皆さんと未来への約束を一步一步実現していく、それが今回の「理科大ビジョン」なのです。

Labo Scope

3

排熱を電気エネルギーに変換 地球温暖化の抑制に貢献

本学のさまざまな先端研究を紹介する「Labo Scope」。今回は、CO₂の排出抑制につながる「排熱発電」の研究をご紹介します。

現代社会の主要エネルギー源である化石燃料のエネルギー利用効率は、わずか3割程度に留まっており、残りの7割は排熱として捨てられています。このうち1%でも無駄なく回収できれば、化石燃料の使用量が減り、二酸化炭素の排出を抑えられるため、地球温暖化抑制や省エネに大きな効果が期待できます。こうした観点から、世界的にエネルギー効率向上のための研究が進められています。

基礎工学部材料工学科の飯田努教授を中心とする研究チームでは、小規模工業炉や製鉄プロセス、各種プラント、自動車など、未利用のまま放出されている排熱を電気エ



研究に使用するマグネシウムシリサイドのペレットを作成する

ネルギーに変換することでエネルギー利用効率を向上させる「排熱発電」技術の開発を進めてきました。この排熱発電を考える上でカギを握るのが「熱電変換素子」。2種類の異なる金属または半導体を接合して、両端に温度差を生じさせると起電力が生じる「ゼーベック効果」を利用して、熱を電力に変換する材料です。

2007年、飯田教授らの研究チームは、この熱電変換素子として、シリコンで構成される「マグネシウムシリサイド(Mg₂Si)」という材料の量産合成に成功しました。

「現在実用化されている熱電変換素子は、素子自身が有害な物質を含んでおり、また製造プロセスにおいても、有害化するおそれのある化学物質が多量に使用されています。こうした物質が不適切な形で排出されると、環境汚染だけでなく人体にも深刻な影響を与えかねません。そのため、環境低負荷な材料の開発が望まれていました。今回、わたしたちが量産合成に成功したマグネシウムシリサイドは、地中



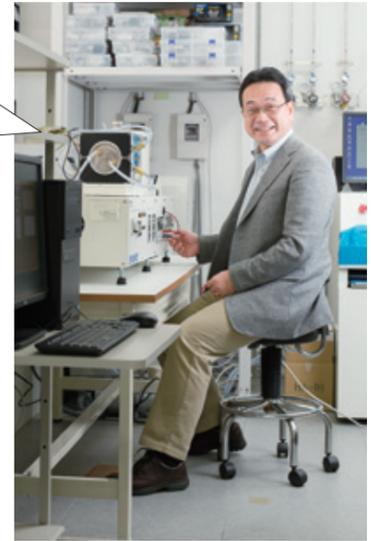
マグネシウムシリサイドのチップと、それを組み合わせて作った発電モジュール

に豊富に存在するシリコンで構成される材料ですから、原材料が枯渇する心配もなく、生成・廃棄時における人体や環境への影響もないという特性を持っています。これにより「環境低負荷な材料を用いて環境低負荷を実現する排熱発電」の実現が可能となりました」

また翌年には、シリコンウエハーの製造・加工工程で大量に廃棄されているシリコン廃棄物から、高性能のマグネシウムシリサイドを大量合成する技術を開発し、環境性能、汎用性能の大幅な向上を実現しました。

さらにその後の研究により、新材料を生かす発電デバイス(部品)の開発にも成功。排熱発電の実用化に向けて大きく前進することとなりました。

「現在は、欧州の自動車関連企業との連携を強め、自動車における実用化研究開発を進めています。欧州では2025年に極めて厳しい自動車向けCO₂排出規制が導入されます。一方、途上国では自動車需要が爆発



基礎工学部材料工学科
飯田 努 (いいた・つとむ) 教授
1995年、明治大学工学研究科電気工学博士課程修了。95～97年、日本学術振興会特別研究員。95～96年、ドイツ「フォルクス・ワーゲン財団」招へい研究員。東京理科大学基礎工学部材料工学科講師、同准教授を経て、2012年から同教授。

的に増加していますから、近い将来、自動車向け排熱再資源化へのニーズはきわめて大きなものとなるでしょう。今後は、国内外のさまざまな企業・研究機関と連携して2014～2016年の実用化試験への準備を行っていきます」

将来は、次世代型ソーラー熱発電システムなど、さまざまな分野への応用が期待される熱電変換技術。今後の展開が注目されます。



欧州の自動車メーカーでは、自動車向け排熱発電システムを開発中

Prize

受賞一覧

東京理科大学生の各種論文・研究発表等の受賞一覧 (2013年6月～10月)

受賞者(所属・学年は受賞または発表時)	受賞名	大会・学会名	受賞テーマ等	受賞日
舟本 雄輝 基礎工研・材料・修2	Graduate Student Poster Award	"The 10th Pacific Rim Conference on Ceramic and Glass Technology including the Glass & Optical Materials Division Annual Meeting"	Photoluminescence Properties of Copper Ion Doped Alkaline-Earth Borosilicate Glasses	2013/06/06
山下 晃弘 工学研・建築・修1				
中東 杜史 工学研・建築・修1				
大村 聡一郎 工一・建築・4				
半田 友紀 工一・建築・4				
石村 大輔 工二・建築・4				
菅谷 由香子 工二・建築・4				
白井 康次 工二・建築・4				
田中 比呂夢 工二・建築・4				
藤坂 美佳 工二・建築・4				
宮前 淳司 工二・建築・4				
橋本 光秀 工二・建築・4				
押川 博幸 工二・建築・4				
寺師 元裕 工二・建築・4				
宇佐美 喜一郎 工二・建築・4				
佐々木 雄飛 理工研・機械・修1				
堀越 元裕 理工研・機械・修1	優秀賞	日本機械学会機軸潤滑設計部門卒研コンテスト	外輪回転運動における転動体挙動の観察 定位予任条件での円すいころ軸受のアキシャル荷重変化の観察 境界潤滑性能を支配する吸着膜のナノ物性評価 境界潤滑特性と表面性状パラメータの相関に関する解析	2013/09/09
鈴木 悠介 工学研・機械・修1				
佐々木 千明 工学研・機械・修1				
山本 航 基礎工研・生物・修1	ポスター賞	酵母遺伝学フォーラム第46回研究報告会	出芽酵母mRNA3'UTR欠損変異体ライブラリーを用いたエンドサイトーシス関連タンパク質の網羅的な解析 アクチン結合タンパク質Srv2pのエンドサイトーシスにおける役割	2013/09/09
仲田 瑛亮 基礎工研・生物・修2				
松崎 真弓 総化研・総化・修2	若手講演ポスター賞	日本分析化学会第62年会	東南アジアおよび日本出土の古代ガラスに関する考古化学的研究	2013/09/10
青木 裕美 基礎工研・生物・博1	2013年度論文賞	日本植物細胞分子生物学会	A long 5' UTR of the rice OsMac1 mRNA enabling the sufficient translation of the downstream ORF	2013/09/11
藤岡 隼 総化研・総化・博3	鈴木紘一メモリアル賞	第86回日本生化学会大会	赤外自由電子レーザー照射による疾患関連タンパク質、糖質の分子構造変化	2013/09/12
林 拓真 理工研・建築・修1	佳作	第15回「いいいろ塗装の日」ポスターデザインコンテスト	Colorful Heartful	2013/09/12
今村 駿二 基礎工研・材料・修1	優秀賞	第29回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	Pt/WO ₃ 薄膜のガスクロミズムを利用した希薄濃度水素ガス検知	2013/09/12
蜂屋 はるな 基礎工研・材料・修1	奨励賞		NaxCoO ₂ 熱電変換材料へのAg電極接合技術の開発と界面抵抗の低減化	
高相 一輝 工学研・電気・修2	奨励発表賞	平成24年度情報処理学会モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会	TVホワイトスペースを利用したコグニティブメッシュネットワークにおける無線リソース割当て及び経路最適化手法の検討	2013/09/12
渡邊 拓実 理工研・機械・修2	学生優秀発表賞	Elgra-JASMA	Behavior of Finite-Size Periodic Flows	2013/09/13
栗田 賢 薬学研・薬科学・修2	フォーラム実行委員長賞	フォーラム2013：衛生薬学・環境トキシコロジー	メチル水銀による脳微小血管内皮細胞のCOX-2発現の誘導とその意義	2013/09/13
土屋 秀正 理工研・建築・修2				
宇田川 真 理工研・建築・修2				
菊池 優介 理工研・建築・修2	優秀賞	第1回 ヒューリック 学生アイデアコンペ	Sports Complex 2020	2013/09/16
佐々木 嶺 理工研・建築・修2				
塚本 慎一郎 理工研・建築・修2				
林 拓真 理工研・建築・修1				
中西 晴香 総化研・総化・修2	優秀ポスター発表賞	第112回 触媒討論会	NaTaO ₃ 光触媒による水を電子源に用いたCO ₂ 還元反応における反応温度依存性 新規電子伝達剤を用いた可視光照射下におけるZスキーム型水分解反応	2013/09/19
加藤 孝明 総化研・総化・修2				
加藤 将勝 総化研・総化・修1	ポスター賞	第64回コロイドおよび界面化学討論会	金属光沢有機結晶の調整とその光沢発現要因	2013/09/19
川出 大佑 理工研・電気・修1	Poster Award	応用物理学会秋季学術講演会	NiO薄膜と様々な半導体・金属とのバンドアライメントの検討	2013/09/19
長目 拓也 基礎工研・材料・修2	優秀ポスター賞	日本金属学会2013年秋季大会	水熱処理により形成した凹凸構造によるIZO導電膜の高透過率化	2013/09/24
鈴木 瑞起 理工研・機械・修2	優秀学生奨励表彰	米国重力宇宙研究学会	Correlation between dynamics surface deformations and particle accumulation structure (PAS) in HZ Liquid Bridge	2013/09/26
阿部 孝史 理工研・機械・修1	学生優秀発表賞	日本設計工学会	スラスト玉軸受を用いた食力リッジマーク形成過程の観察	2013/10/04
赤松 允顕 理工研・工化・博2	最優秀ポスター賞	第28回高分子学会関東支部茨城地区若手の会交流会	溶媒書き込み型有機分子メモリの開発	2013/10/07
小林 宗太郎 理工研・電気・修2	日本航空宇宙学会 優秀発表賞	第57回宇宙科学技術連合講演会	マルチプラットフォームに対応した小型衛星標準搭載 ソフトウェアフレームワーク	2013/10/10
中村 祐輝 総化研・総化・修1				
松川 博亮 総化研・総化・修1	Poster Award	International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan	Effects of the Solid co-Solvent on the Melting Point Depression of Organic Substances Phase Behavior of PS/Tetramethyl orthosilicate/CO ₂ Ternary System	2013/10/10
加藤 文博 総化研・総化・修2			Foaming behavior of polymers with using mixtures of CO ₂ and N ₂ as foaming agent	

People

名誉教授称号授与

平成25年11月14日付で、東京理科大学は長年にわたり本学の教育・研究の発展に尽力し、多くの功績を挙げた7人の先生方に名誉教授の称号を授与しました。

新妻 弘 先生 (にいづま・ひろし)

平成6年に理学部第二部数学科教授として着任し、理学部第二部学部長、学生部長、学科主任等を歴任しました。在任期間中は夜間学部の重要性・発展について社会貢献という観点から提言するとともに、本学の教員養成の重要性を訴え、理数教育センター数学教育研究部門の設立に尽力するなど、教育活動において本学の発展に貢献しました。



専門分野は代数幾何学で、具体的には標数pの局所環におけるp-基底の有無に関する研究等を中心課題としてきました。これらの研究の成果として、正則局所環を微分基底により特徴付けすることに成功し、2変数多項式環のプロベニウス・サンドウィッチに対するp-基底の存在を証明するなど、研究活動においても多大な功績を残しました。

小澤 喬 先生 (おざわ・たかし)

昭和51年に理工学部教養の講師として着任し、平成9年に教授となり、理工学部教養の教務幹事、学生部委員会委員、公務員対策委員等を歴任するなど、本学在職の37年間にわたり、本学の教育・研究の発展に尽力しました。専門分野はシェイクスピアを中心とした英国文学で、並行して哲学、とりわけ英米の哲学ならびに教育哲学の研究に従事しました。専門書の翻訳、TOEIC関連著書の執筆など、幅広い領域における学術活動は高く評価され、その成果は多数の研究論文、著書等により公表されています。



また、これらの幅広い研究から得られた知見は本学における教育、学生指導において生かされ、多くの学生に影響を与えました。

竹中 正 先生 (たけなか・ただし)

昭和48年に理工学部電気工学科助手として着任し、平成8年に教授となり、学科主任、学科幹事、研究科幹事等を歴任しました。在職期間中は数多くの学生の論文指導にあたり、多くの技術者・研究者を育成するなど、本学の教育・研究活動の発展に尽力しました。



専門分野は圧電材料、強誘電体材料で、環境にやさしい非鉛圧電セラミックスに関する研究等は世界的に高く評価されており、日本セラミックス協会第55回学術賞を受賞しています。また国際的にも幅広い活躍をしており、第5回アジア強誘電体会議等の国際会議組織委員長を務め、米国電気電子学会IEEEのFerroelectrics Recognition Awardを授賞しています。IEEEおよび米国セラミックス学会各フェロー。

原田 昇 先生 (はらだ・のぼる)

平成3年に工学部第一部経営工学科教授として着任し、平成5年に経営学部に移り、経営学部長、経営学研究科長、学科主任、久喜図書館長等を歴任しました。在職期間中には300人近くの学生の指導に携わり、公認会計士、税理士を中心とした研究指導を積極的に行いました。



研究においては、管理会計学に経済学的手法をベースにした最先端の数値モデルを導入し、科学としての管理会計学の確立に多大な貢献をしました。

さらに、学外においても、日本管理会計学会設立の発起人の一人となり、同学会の副会長、常務理事等を務めたほか、日本経済学連合会役員、大学基準協会大学評価委員を務めるなど、幅広い分野で活躍をしています。また平成26年4月からは同学会の会長を務めています。

金子 堅司 先生 (かねこ・けんじ)

昭和53年に工学部第一部機械工学科講師として着任し、平成元年4月に教授となり、大学図書館長、学科主任、学科幹事、専攻幹事等を歴任しました。専門分野は材料力学で、溶射被膜の強度評価に関する研究、形状記憶合金を用いた熱エンジンの開発研究などの幅広い研究で優れた成果を挙げております。



また、学外においても日本機械学会、日本材料学会における各種委員会・研究会の主査・委員長などを歴任し、日本機械学会から功績賞を授与されるなど、その学術活動は高く評価されています。

また、教育においては、工場実習制度の創設、学生の人間力向上に係るコンピテンシー教育プログラムの創設など、機械工学科の特色あるシステムの構築に多大な貢献をしました。

牧野 都治 先生 (まきの・とし)

昭和53年に理工学部情報科学科教授として着任し、平成5年に経営学部に移り、学科主任、研究科幹事等を歴任しました。在職期間中は、多くの学部生・大学院生の論文指導にあたり、本学の教育活動の発展に尽力しました。専門分野はオペレーションズ・リサーチおよび数理統計学であり、直列型待ち行列の研究や、高額所得納税金額に見る格差の分析等の研究は、多数の研究論文、著書、論説等で公表されています。



学外においても、日本オペレーションズ・リサーチ学会で評議員・理事・副会長を務め、同学会よりフェロー記、普及賞を授与され、日本統計学会の名誉会員に列せられるなど、その学術活動は高い評価を得ております。

千葉 丈 先生 (ちば・じょう)

平成元年に基礎工学部生物工学科教授として着任し、研究科幹事、学科主任等を歴任しました。また、ヒト材料研究および遺伝子解析研究倫理委員会、病原性微生物等安全管理委員会の立ち上げに尽力しました。専門分野は免疫工学であり、ヒト抗体（抗体医薬）作製法の確立、DNA免疫法や、細胞内抗体（イントラボディ）法の開発等、モノクローナル抗体を用いた免疫工学分野において優れた成果を挙げ、多数の優秀な研究者を育てました。また、国内外の学会において多数の研究発表を行ったほか、国立感染症研究所（連携大学院）などの外部研究機関や国内外の企業との共同研究を進めるなど、積極的に社会貢献をしました。



定年退職

長年にわたり本学の教育・研究、事務に尽力された34氏が平成26年3月31日付で定年を迎えられました。

●理 一：教養	教授	丸山 義博
教養	教授	三土 修平
化学	教授	齊藤 隆夫
●理 二：化学	講師	竹村 哲雄
●薬 学：薬	教授	小島 周二
薬	准教授	海保 房夫
●工 一：教養	教授	立崎 秀和
工化	教授	荒川 裕則
経工	教授	沼田 一道
経工	教授	仁木 直人
経工	教授	山口 俊和
●工 二：電気	助教	三浦 勉
●理 工：物理	教授	春山 修身
物理	教授	盛永 篤郎
物理	教授	元屋 清一郎
情科	講師	榎本 進
応生	教授	小祝 修
工化	教授	伊藤 滋
電電	教授	金子 敏信
土木	教授	西村 司
●基礎工：生物	教授	田代 文夫
生物	教授	山登 一郎
●経 営：経営	教授	東邦 仁虎
●イノベ研：知財	教授	皆川 長三郎
●山 口：工・教養	教授	酒井 吉雄
工・教養	准教授	早川 あけみ
●諏 訪：シス工・電子	教授	青木 正和
シス工・機械	教授	須川 修身

●事務総局

管財部管財課(神楽坂) 担当課長	塚田 幹夫
管財部管財課(野田) 課長補佐	田中 秀五郎
教務部教務課(神楽坂) 主任	後藤 善幸
教務部教務課(神楽坂)	滝田 アキ子
学生支援部学生支援課(野田) 次長	島田 義夫
学術情報システム部	
図書館事務課野田図書館事務室 室長	青柳 伸策

新学部長就任

平成26年4月1日付で、山口東京理科大学工学部長に山口東京理科大学工学部電気工学科の森田廣教授が就任しました。



新任職員 4月1日付で新採用の職員16人を紹介します



●葛飾キャンパス	●野田キャンパス
理事長室・飯塚 美芽	教務課(野田)・大野 愛里
学部再編準備室・八木澤 龍大	教務課(野田)・塚田 理子
総務課・野中 麻衣	学生支援課(野田)・塩澤 快樹
広報課・金澤 冬樹	●山口東京理科大学
管財課(葛飾)・荒井 拓也	山口東京理科大学事務部・
危機管理課・砂川 大祐	酒井 駿多
学生支援課(葛飾)・伊庭 一孝	
●神楽坂キャンパス	●諏訪東京理科大学
企画総務課(神楽坂)・石原 翔	諏訪東京理科大学事務部・
学務課(神楽坂)・柏木 せりな	山根 悠貴
教務課(神楽坂)・李 棕柳	
学生支援課(神楽坂)・滝沢 航平	

新任教員 22氏紹介

歴史を塗り替える新しい力に

①最終学歴 ②前歴 ③専門分野 ④学位



【理学部第一部】
教養学科/准教授
神野 潔
じんの・きよし

①慶應義塾大学大学院法学研究科公
法学専攻後期博士課程単位取得退学
②武蔵野学院大学国際コミュニケー
ション学部准教授 ③基礎法学 ④修
士(法学)



【理学部第一部】
応用物理学科/教授
遠山 貴巳
とおやま・たかみ

①名古屋大学大学院工学研究科博士
後期課程修了 ②京都大学基礎物理
学研究所教授 ③物性理論 ④工学博
士



【理学部第一部】
応用物理学科/准教授
伊藤 哲明
いとう・てつあき

①東京大学大学院工学系研究科物理
工学専攻博士課程修了 ②東京大
学大学院 工学系研究科附属量子相
レクトロニクス研究センター特任講
師 ③物性物理学 ④博士(工学)



【理学部第一部】
応用物理学科/講師
住野 豊
すみの・ゆたか

①京都大学大学院理学研究科博士課
程修了 ②愛知教育大学講師 ③非平
衡ソフトマター物理学、生命物理学
④博士(理学)



【理学部第一部】
応用化学科/准教授
古海 誓一
ふるみ・せいいち

①東京工業大学大学院総合理工学研
究科博士課程修了 ②独立行政法人
物質・材料研究機構主幹研究員 ③
有機材料化学 ④博士(工学)



【薬学部】
薬学科/教授
市原 学
いちばら・がく

①名古屋大学大学院医学研究科博士
課程 ②名古屋大学大学院医学系研
究科准教授 ③環境労働衛生学 ④博
士(医学)



【工学部第一部】
教養/講師
吉田 裕
よしだ・ゆたか

①一橋大学大学院言語社会研究科博
士課程後期 ②早稲田大学ほか非常
勤講師 ③英文学、ポストコロナ
ル研究 ④博士(学術)



【工学部第一部】
電気工学科/教授
河原 尊之
かわはら・たかゆき

①九州大学大学院理学研究科物理学
専攻修士課程修了 ②(株)日立製
作所中央研究所ライフサイエンス研
究センター主管研究員 ③ナノ領域電
子工学 ④博士(工学)



【工学部第一部】
電気工学科/講師
植田 譲
うえだ・ゆづる

①東京農工大学大学院工学府電子情
報工学専攻博士後期課程修了 ②東
京工業大学大学院理工学研究科電子
物理学専攻助教 ③電力・エネル
ギー工学、太陽光発電 ④博士(工
学)



【工学部第一部】
経営工学科/教授
池口 徹
いけぐち・とほる

①東京理科大学大学院理工学研究科
電気工学専攻修了 ②埼玉大学大
学院理工学研究科教授 ③非線形ダイ
ナミクスとカオス、生体情報学、複
雑ネットワーク論 ④博士(工学)



【工学部第一部】
機械工学科/准教授
牛島 邦晴
うしじま・くにはる

①東京理科大学大学院工学研究科博
士課程修了 ②九州産業大学工学部
機械工学科准教授 ③材料力学、計
算力学 ④博士(工学)



【理工学部】
物理学科/准教授
幸村 孝由
こうむら・たかよし

①大阪大学大学院理学研究科宇宙地
球科学専攻博士後期課程修了 ②工
学院大学基礎教養教育部門 ③宇宙
物理学 ④博士(理学)



【理工学部】
応用生物科学科/教授
大谷 直子
おおたに・なおこ

①京都府立医科大学大学院医学研究
科博士課程修了 ②公益財団法人が
ん研究会がん研究所・主任研究員
③腫瘍生物学、分子生物学 ④博士
(医学)



【理工学部】
経営工学科/准教授
日比野 浩典
ひびの・ひろのり

①東京理科大学理工学部機械工学
科 ②(一財)機械振興協会技術研
究所技術主幹 ③生産システム ④博士
(工学)



【理工学部】
土木工学科/講師
仲吉 信人
なかよし・まこと

①東京工業大学大学院理工学研究科
国際開発工学専攻博士課程修了 ②
東京工業大学大学院理工学研究科
国際開発工学専攻特任助教 ③都市水
文気象学 ④博士(工学)



【基礎工学部】
電子応用工学科/准教授
増田 信之
ますだ・のぶゆき

①東京大学大学院総合文化研究科博
士課程修了 ②長岡技術科学大学電
気系特任准教授 ③計算機工学 ④博
士(学術)



【経営学部】
経営学科/教授
大石 悦子
おおいし・えつこ

①エディンバラ大学大学院言語学
学科博士課程修了 ②藤女子大
文学部英語文化学科教授 ③言語
学(語用論・意味論) ④Ph.D. in
Linguistics



【経営学部】
経営学科/講師
安藤 晋
あんどう・しん

①東京大学大学院工学系研究科博士
課程修了 ②群馬大学理工学系研
究科助教 ③知識情報処理・データ
マイニング・機械学習 ④博士(工学)



【イノベーション研究科】
技術経営専攻/講師
岸本 太一
きしもと・たいち

①一橋大学大学院商学研究科博士後
期課程修了 ②敬愛大学経済学部准
教授 ③国際経営論、企業経済分析
④博士(商学)



【イノベーション研究科】
知的財産戦略専攻/教授
浅見 節子
あさみ・せつこ

①東京大学大学院理学系研究科化学
専門課程修士課程修了 ②特許庁特
許審査第三部長 ③知的財産(特に
知的財産制度の国際的枠組、特許実
務) ④修士(理学)



【山口東京理科大学 工学部】
機械工学科/講師
池田 毅
いけだ・たけし

①福井大学大学院工学研究科博士後
期課程修了 ②九州大学大学院工
学院機械工学部門助教 ③ロボッ
ト工学 ④博士(工学)



【諏訪東京理科大学 経営情報学部】
経営情報学科/准教授
中井 誠司
なかい・せいじ

①筑波大学大学院ビジネス科学研究
科博士課程修了 ②事業創造大学院
大学専任講師 ③財務会計、財務分
析 ④博士(経営学)

Prize



課外活動の 優秀成績者を表彰

3月12日(水)に課外活動において優秀な成績や功績のあった団体、個人を表彰する学長表彰の授与式が葛飾キャンパス図書館大ホールで行われました。

学長賞は国際的、全国的な活躍に、学生支援センター長賞は地域的あるいは加盟している連盟での活躍に対して表彰するものです。

学長賞を受賞したI部体育局 スキー部(葛飾)の山本馨子さん(工一・工化・4年)は「数年前は廃部寸前になったこともあったのですが、先輩・後輩や関係者の方たちのおかげでここまですることができました。今後も文武両道の精神で頑張っていきたいです」と話してくれました。

学生支援センター長賞を受賞したII部体育会 舞踏研究部による演舞



特別奨励賞を受賞したI部体育局 ウェイトトレーニング部(神楽坂)の山本佳明さん



学長賞を受賞したI部体育局 スキー部(葛飾)・(野田)、浦和新さんと藤嶋学長



研究等の成果が 優秀な学生を表彰

3月6日(木)に平成25年度東京理科大学学生表彰式が葛飾キャンパスで行われました。

この表彰は、研究等の成果が特に優れていると認められる学生を対象としており、今年度は15人が表彰され、藤嶋昭学長から表彰状と副賞が贈呈されました。

今回表彰された新堀佳紀さん(総化研・総化・

博3)は「ナノテクノロジーの基盤材料となる金属原子の集合体(金属クラスター)の研究をしています。4月からは根岸研究室で博士研究員として研究を続けていきますが、今回の受賞を励みにさらに頑張っていきたいと思います」と今後の抱負を語ってくれました。



学長、副学長と受賞した学生

●平成25年度 学長表彰 受賞者 受賞団体

(所属・学年は受賞時)

学長賞 [団体]	
I 部体育局 スキー部(葛飾)	I 部体育局 スキー部(野田)
学生部長賞 [個人]	
浦和 新(野田同好会 ジャグリングDOMINUS SOMNI、理工・経営工・4)	
学生支援センター長賞 [団体]	
I 部体育局 水泳部(神楽坂)	I 部体育局 水泳部(野田)
I 部体育局 軟式野球部(久喜)	II 部体育会 軟式野球部
学生支援センター長賞 [個人]	
安藤 将(II 部体育会 舞踏研究部、理二・化学・4)	
田中 響(II 部体育会 舞踏研究部、理二・化学・4)	
特別功労賞 [個人]	
綾野 晃志郎(II 部体育会 舞踏研究部、理二・物理・4)	
清水 友博(I 部体育局 陸上競技部(神楽坂)、工一・機械・4)	
田中 大希(I 部体育局 水泳部(野田)、理工・機械・4)	
功労賞 [個人]	
池田 秀公(I 部体育局 局長)他 体育局本部役員 計16名	
平清水 元宣(II 部体育会 会長)他 体育会本部役員 計11名	
特別奨励賞 [団体]	
I 部体育局 ソフトボール部(野田)	野田文化会 機械工学研究会
特別奨励賞 [個人]	
石川 稚菜(I 部体育局 弓道部(野田)、理工・情報・3)	
山本 佳明(I 部体育局 ウェイトトレーニング部(神楽坂)、理一・応化・3)	
鈴木 花菜(I 部体育局 水泳部(神楽坂)、理一・応化・2)	
桑山 裕貴(I 部体育局 スキー部(葛飾)、工一・電気・1)	
平松 直人(届出団体 Mice(葛飾)、理一・数情・3)	
鴨野 恭平(I 部体育局 硬式庭球部(葛飾)、工一・電気・3)	
奨励賞 [団体]	
I 部体育局 ハンドボール部(葛飾)	I 部体育局 ハンドボール部(野田)
I 部体育局 弓道部(神楽坂)	I 部体育局 弓道部(野田)
I 部体育局 陸上競技部(野田)	I 部体育局 空手道部(葛飾)
奨励賞 [個人]	
本間 海(I 部体育局 硬式庭球部(葛飾)、工一・電気・1)	
安藤 裕太(I 部体育局 硬式庭球部(葛飾)、理一・数情・1)	
濱崎 拓也(I 部体育局 軟式庭球部(葛飾)、理一・応物・2)	
久松 哲(I 部体育局 軟式庭球部(野田)、理工・応生・1)	
千葉 大稔(I 部体育局 軟式野球部(久喜)、経営・経営・3)	
寺尾 紗貴(I 部体育局 軟式庭球部(葛飾)、理一・数学・3)	
柴野 奈津美(I 部体育局 軟式庭球部(野田)、理工・応生・1)	
安藤 大輔(I 部体育局 洋弓部(神楽坂)、工一・工化・3)	
阿津 英明(I 部体育局 陸上競技部(神楽坂)、工一・建築・3)	
感謝状 [団体]	
I 部文化会 混声合唱団(神楽坂)	野田文化会 化学研究会
野田文化会 和太鼓サークル	届出団体 みらい研究室実行委員会(葛飾)
体育祭実行委員会(神楽坂・野田・久喜・葛飾)	
理大祭実行委員会(神楽坂)	理大祭実行委員会(野田)
理大祭実行委員会(久喜)	理大祭実行委員会(葛飾)

●平成25年度 学生表彰 受賞者

(所属・学年は受賞時)

受賞者	
下川 拓哉	理学部第二部 数学科 4年
田中 洸輔	理学研究科 応用物理学専攻 修士課程2年
吉田 紘章	総合化学研究科 総合化学専攻 修士課程2年
堀江 優太	工学研究科 建築学専攻 修士課程2年
小林 翔	
林 耕磨	理工学研究科 応用生物学専攻 修士課程2年
村上 郁矢	基礎工学研究科 電子応用工学専攻 修士課程2年
佐藤 健	基礎工学研究科 材料工学専攻 修士課程2年
大橋 純子	理学研究科 物理学専攻 博士後期課程3年
川崎 玉恵	理学研究科 数理情報科学専攻 博士後期課程1年
新堀 佳紀	総合化学研究科 総合化学専攻 博士後期課程3年
峯木 紘子	総合化学研究科 総合化学専攻 博士後期課程3年
志村 聡美	理工学研究科 応用生物学専攻 博士後期課程3年
染谷 望	理工学研究科 土木工学専攻 博士後期課程1年
廣戸 孝信	基礎工学研究科 材料工学専攻 博士後期課程2年

※(受賞内容は本学ホームページでご覧いただけます。)

維持拡充資金(第二期) 寄付者芳名

「維持拡充資金(第二期)」にご賛同いただき、ご寄付をたまわった方々のご芳名を掲載します。今回は、2013年11月1日～2014年1月31日までにご入金いただいた分です。ご芳名は区別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきました。累計は維持拡充資金(第二期)の寄付額です。

<p>【個人】 (同窓生) ◇金4,500,000円 森野 義男 様 (累計金76,000,000円) ◇金2,000,000円 香澤 慶太郎 様 (累計金5,000,000円) ◇金1,600,000円 杉山 孝浩 様 ◇金1,000,000円 天野 久 様 (累計金2,000,000円) ◇金500,000円 加藤 和詳 様 (累計金2,000,000円) ◇金300,000円 岡本 公爾 様 (累計金1,700,000円) 高山 あけみ 様 (累計金680,000円) ◇金200,000円 葛田 正雄 様 (累計金1,360,000円) 小沼 正彦 様 高野 京子 様 西嶋 均 様 (累計金1,200,000円) 山下 秀雄 様 (累計金700,000円) ◇金130,000円 馬場 雅子 様 (累計金520,000円) ◇金100,000円 石井 智 様 (累計金1,200,000円) 石川 万寿雄 様 (累計金270,000円) 今泉 精一 様 (累計金230,000円) 狐塚 章 様 (累計金200,000円) 黒崎 弘康 様 (累計金130,000円) 杉田 康一 様 (累計金200,000円) 竹内 倫文 様 (累計金150,000円) 田辺 一之助 様</p>	<p>露木 梅次 様 (累計金200,000円) 根本 悦朗 様 (累計金200,000円) 福田 善政 様 保坂 祐夫 様 巻田 泰治 様 山本 晴彦 様 (累計金300,000円) 匿名 4名 ◇金50,000円 新木 元治 様 (累計金100,000円) 五十嵐 丈夫 様 一ノ瀬 好弘 様 (累計金100,000円) 梅本 佳世 様 (累計金100,000円) 加賀谷 秀樹 様 (累計金150,000円) 梶原 巡 様 (累計金200,000円) 角谷 匡規 様 (累計金140,000円) 香取 俊雄 様 (累計金200,000円) 白井 孝 様 (累計金110,000円) 田代 寛 様 (累計金150,000円) 青山 哲也 様 (累計金150,000円) 前澤 浩 様 (累計金280,000円) 松井 辰男 様 (累計金450,000円) 水野 澄 様 (累計金200,000円) 宮本 結三 様 武藤 和雄 様 山口 博之 様 渡邊 亮夫 様 (累計金100,000円) 匿名 3名 ◇金30,000円 木村 豊 様 (累計金80,000円) 高村 泰雄 様 (累計金100,000円)</p>	<p>小町 伸昭 様 (累計金220,000円) 杉浦 雅美 様 (累計金40,000円) 増淵 忠行 様 (累計金120,000円) 守屋 茂 様 (累計金460,000円) ◇金20,000円 安里 修一 様 (累計金30,000円) 菊池 理恵子 様 (累計金40,000円) 桑田 洋一 様 (累計金170,000円) 馬場 鏡成 様 (累計金1,040,798円) 増永 将二 様 (累計金60,000円) 松田 清 様 (累計金50,000円) 山崎 一信 様 (累計金130,000円) 匿名 3名 ◇金15,000円 齋木 保男 様 (累計金50,000円) 田中 輝昭 様 (累計金50,000円) ◇金10,000円 青山 哲也 様 (累計金40,000円) 岩岡 正視 様 (累計金40,000円) 奥村 弘樹 様 (累計金110,000円) 角出 光一 様 (累計金30,000円) 河野 茂磨 様 (累計金50,000円) 菊池 郭元 様 (累計金60,000円) 近藤 英世 様 (累計金50,000円) 清水 充治 様 (累計金40,000円) 白崎 永夫 様 (累計金40,000円)</p>	<p>鈴木 明夫 様 (累計金55,000円) 関 昭宣 様 (累計金50,000円) 高梨 秀聡 様 (累計金20,000円) 新野 英樹 様 (累計金350,000円) 八谷 武司 様 (累計金30,000円) 林 茂 様 (累計金60,000円) 平川 芳孝 様 (累計金40,000円) 平野 輝美 様 廣野 耕平 様 (累計金20,000円) 妙円 勉 様 (累計金50,000円) 森川 和哉 様 (累計金50,000円) 柳井 幸男 様 (累計金30,000円) 敷 康彦 様 (累計金40,000円) 山下 正 様 (累計金180,000円) 山本 理生佑 様 吉田 昭一 様 (累計金20,000円) 匿名 1名 ◇金5,000円 毛利 啓之介 様 (累計金55,000円)</p>	<p>〈元教職員〉 ◇金500,000円 竹内 伸 様 ◇金70,000円 上村 洸 様 (累計金110,000円) ◇金50,000円 上原 孝雄 様 (累計金260,000円) ◇金20,000円 柏谷 衛 様 (累計金150,000円) ◇金10,000円 賀屋 秀隆 様 (累計金310,000円) 匿名 1名</p> <p>〈教職員〉 ◇金500,000円 森口 泰孝 様 横山 和夫 様 (累計金2,000,000円) ◇金450,000円 藤嶋 昭 様 (累計金6,850,000円) ◇金300,000円 松崎 育弘 様 (累計金900,000円) ◇金254,000円 中根 滋 様 (累計金998,895円) ◇金250,000円 河村 洋 様 (累計金2,200,000円) ◇金200,000円 若林 勇 様 ◇金150,000円 匿名 1名 ◇金120,000円 匿名 1名</p>	<p>◇金100,000円 岡村 総一郎 様 (累計金350,000円) 菅原 秀章 様 (累計金800,000円) 匿名 3名 ◇金70,000円 赤上 好 様 (累計金150,000円) 田中 芳夫 様 (累計金300,000円) 横倉 隆 様 (累計金570,000円) ◇金50,000円 岩片 古志郎 様 廣野 耕平 様 (累計金200,000円) 榎本 一之 様 大野 紀夫 様 (累計金150,000円) 加納 誠 様 (累計金200,000円) 河野 守 様 (累計金200,000円) 坂本 正典 様 (累計金250,000円) 寺島 千晶 様 藤野 仁三 様 (累計金800,000円) 匿名 3名 ◇金40,000円 匿名 1名 ◇金30,000円 多田 孝次 様 (累計金220,000円) 山田 俊彦 様 (累計金1,590,000円) 匿名 2名 ◇金25,000円 加賀谷 貞夫 様 (累計金270,000円)</p>	<p>◇金20,000円 白川 晋吾 様 (累計金50,000円) 関川 浩 様 ◇金15,000円 原 泰志 様 (累計金220,000円) ◇金10,000円 臼井 恵美子 様 (累計金30,130円) 大木 達也 様 (累計金80,000円) 川村 清 様 佐古 彰史 様 永田 寅臣 様 (累計金13,000円) 平木 多賀人 様 (累計金40,000円) 保坂 忠明 様 牧 高司 様 (累計金80,000円) 匿名 1名 ◇金8,000円 匿名 1名 ◇金7,000円 浦川 隆文 様 (累計金11,000円) ◇金5,000円 松永 幸大 様 (累計金105,000円) 匿名 2名 ◇金3,000円 岩岡 竜夫 様 (累計金14,000円) 佐伯 政俊 様 (累計金77,000円) ◇金2,000円 藤田 恵理 様 (累計金14,000円)</p>	<p>プレーマチャンドラ チンタカ 様 (累計金20,000円) ◇金1,000円 倉本 学 様 匿名 1名</p> <p>【法人】 ◇金603,234円 財団法人工業技術協会 様 ◇金330,000円 株式会社東京大学TLO 様 (累計金421,000円)</p> <p>【団体】 ◇金300,000円 東京理科大学工学部経営工学科森本研08会「帰森会」 様 ◇金97,160円 2013ホームカミングデー参加者有志 様</p> <p>【こうよう会】 ◇金12,166,986円 個人 283名 (累計金201,378,681円)</p>
--	--	--	--	--	--	---	---

寄付のお申し込みに
インターネットを
ご利用いただけます

*クレジット決済での
個人寄付の受け付けを
2013年4月から行っています。
詳しくは本学HP
(http://www.tus.ac.jp/bokin/)
でご確認ください。

問い合わせ先
**東京理科大学
募金事業事務局**
(TEL) 03-5228-8723
(FAX) 03-3260-4363
(e-mail) bokinjgyo@admin.tus.ac.jp

<p>●入金額 (2013年11月1日～2014年1月31日) 【個人】20,091,000円(164名) 【法人】933,234円(2社) 【団体】397,160円(2団体) 【こうよう会】12,166,986円(283件)</p>	<p>●2013年度 寄付総額 (2013年4月1日～2014年1月31日) 【個人】72,977,292円 【法人】1,333,234円 【団体】611,180円 【こうよう会】47,411,986円</p>
---	---

優れた研究業績を挙げた教員を表彰

平成25年度の学校法人東京理科大学優秀研究者特別賞、奨励賞の受賞者が決定し、2月26日(水)に葛飾キャンパスで表彰式が開催され、藤嶋昭学長から受賞者に表彰状と副賞が贈られました。

「学校法人東京理科大学優秀研究者賞」は、研究活動の活性化を目的として、平成17年度に制度化されたものです。優秀研究者賞には、「特別賞」と「奨励賞」があり、特別賞は、特に優れた研究者に対して授与され、これまで10人が受賞しています。一方、奨励賞は、40歳未満の優れた若手研究者に対して授与され、これまでに20人が受賞しています。(※所属・職位は受賞時)

●優秀研究者特別賞

長嶋泰之 教授 理学部第二部 物理学科
飯田努 教授 基礎工学部 材料工学科

●優秀研究者奨励賞

横田智巳 准教授 理学部第一部 数学科
月本光俊 助教 薬学部 薬学科



左から横田准教授、飯田教授、長嶋教授、月本助教



一般入学試験、過去36年間で志願者数が最高に

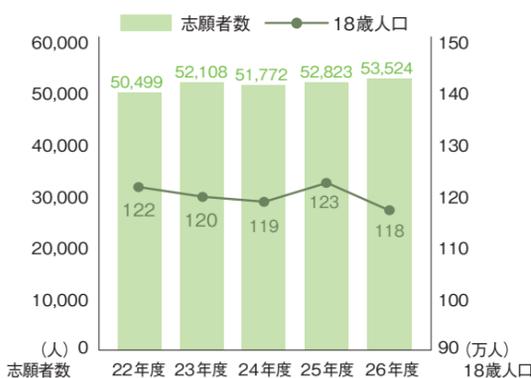
本学の平成26年度一般入学試験(B方式・C方式)は、2月3日(月)の経営学部B方式から始まり、3月24日(月)の工学部第二部C方式まで全ての日程が終了しました。

本年度の一般入学試験(A方式・B方式・C方式)の志願者数は5万3,524人となり、昭和54年以降過去36年間で最高となりました。入試形態別にみると、A方式が1万5,579人(前年度比761人増)、B方式が3万4,386人(前年度比48人減)、C方式が3,559人(前年度比12人減)となり、本学独自試験であるB方式と大学入試センター試験と本学独自試験を併用するC方式では志願者が若干減少したものの、大学入試センター試験利用のA方式では志願者が増加し前年度比701人の増加となりました。

近年の志願者動向は経済不況の影響により、入学後の学費や生活費負担を考慮して地元の大学を目指す「地元志向」「安全志向」が高い中、「就職に強い大学」であることも志望大学の決定のポイントとなっています。本学では、創立以来変わらない「真の実力を付けた者のみを卒業させる」という実力主義が貫かれており、この伝統的教育により日本の科学技術の発展を支える人材を数多く世に送り出してきました。このことが、卒業時の「質」の高さとして社会からも評価され、志願者の増加にもつながっているものと考えられます。

今後も全国から受験生が目指す、魅力ある「実力主義の大学」であり続けることが、本学の発展にもつながっていきます。

●東京理科大学入試志願者数の推移



●平成26年度東京理科大学学部別志願者数

学部	A方式	B方式	C方式	合計
理一	3,100	7,865	657	11,622
工一	2,520	6,823	749	10,092
薬学	1,331	2,714	275	4,320
理工	5,088	11,514	1,255	17,857
基礎工	1,100	2,760	389	4,249
経営	1,732	1,297	142	3,171
昼間部合計	14,871	32,973	3,467	51,311
理二	421	860	—	1,281
工二	287	553	92	932
夜間部合計	708	1,413	92	2,213
大学合計	15,579	34,386	3,559	53,524

※単位:人

学位記・修了証書授与式を挙行

3月19日(水)に日本武道館(東京都千代田区)で平成25年度の学位記・修了証書授与式が行われました。本年度は、学部3,717人のほか、修士1,554人、博士(論文博士含む)60人、専攻科17人の計5,348人に学位記・修了証書を授与しました。

藤嶋昭学長は式辞において、「東日本大震災によりわたしたちは現在の豊かさの脆弱性を知らされることとなった。皆さんには本学で身に付けた知識を發揮し、環境問題、少子高齢化問題などの難局を切り開いてほしい。また、努力家で科学の普及活動に貢献した科学者、マイケル・ファラデーのように、一つのことを決めたら継続することで身に付けてほしい」と卒業生、修了生にメッセージを送りました。

修了証書を受け取った基礎工学研究科材料工学専攻の男子修了生は「大学で経験したこと、学んだことを生かし、社会のために貢献できるようにこれからも頑張っていきたい」と社会人になる抱負を語ってくれました。



WIPO事務局長 フランシス・ガリ氏に名誉博士号を授与

本 法人と本学は、学術文化や国際理解の発展に多大の功績を挙げているとして、国連・世界知的所有権機関(以下略WIPO)事務局長 フランシス・ガリ氏に名誉博士号を授与することを決定し、その授与式が2月24日(月)に行われました。



左から藤嶋学長、ガリ氏、中根滋理事長

ガリ氏は1985年にWIPO事務局に入り、特許協力条約(PCT)制度の普及拡大に努めるなど、国際的な知的財産のサービス発展に貢献しました。また、知的財産分野の学術研究機関である「WIPOアカデミー」で世界の知的財産教育の支援をしており、現在、世界の7大学の知財プログラム(修士課程)が「WIPOアカデミー」の認定を受けています。

本学知的財産戦略専攻(MIP)は研究・教育のグローバル化に力を入れており、今回の授与を機に、WIPOとの連携を一層深めていく予定です。

長万部キャンパス退寮式を挙行 1年間の思い出を胸に 304人が新たな歩み

2 月20日(木)、長万部学寮第27回退寮式が行われました。退寮式で



代表学生による謝辞

は、学生に対して藤代博記基礎工学部長、榎本一之教養部長から激励の言葉があり、長万部町の白井捷一町長からは温かい言葉とともに記念品が贈呈されました。また代表学生2人の謝辞には、一同が思いを重ね目頭を熱くする様子も見られました。長万部学寮で1年間を過ごした304人の学生は、4月から葛飾キャンパスで新しい歩みを始めています。

葛飾キャンパス開設一周年 ピアノコンサートを開催

3 月30日(日)に、葛飾キャンパス図書館大ホールで、「葛飾キャンパス開設1周年 東京理科大学ピアノコンサートHappiness is...ひとつひとつの毎日、それぞれの明日へ。」が開催され、学内外から約450人の来場がありました。

今回のコンサートは、葛飾キャンパスの開設1周年および、東京理科大学維持会からピアノ2台が寄贈された事を記念して開催されたもので、本学卒業生であり、音楽家として国内外で活躍中のピアニスト・鬼武みゆきさんを中心に演奏が行われました。約80分にわたり温かみのある、そして熱

のこもった曲が多数演奏され、また、アンコールでジャズアレンジされた東京理科大学校歌が演奏されると、会場を埋め尽くした観客から大きな拍手が沸きあがっていました。



葛飾区で科学の楽しさを伝える イベント「オドロキ科学箱」を開催

3 月15日(土)に高砂地区センター(葛飾区高砂)で、小学生から高校生を対象に科学の楽しさを伝えるイベント「オドロキ科学箱」が開催され、約1,000人の参加がありました。

これは、地域交流を目的として開催されたもので、本学学生団体の「みらい研究室」が主体となり、スーパーボール作りや竜巻の観察などのさまざまな実験を行い、参加者からは「普段、学校でやったことのない

実験ができて楽しかった」などのコメントが寄せられました。



割れないシャボン玉作りの様子

山口東京理科大学ニュース

平成26年度 入学式

平成26年度山口東京理科大学入学式が4月6日(日)、本学5201教室で挙行されました。本年度は工学部164人(機械工学科47人、電気工学科42人、応用化学科75人)、大学院修士課程3人、計167人の新入生を迎えました。



新入生諸君へ 山口東京理科大学 学長 塚本 恒世

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんに、これから3つのことを申し上げたいと思います。1つ目は本学の建学の精神です。本学は130余年の歴史を有し、わが国における理工系高等教育をリードしてまいりました、東京理科大学の建学の精神、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を、山口県においても展開し実現すべく設置されました。昨今はグローバル化による社会構造の急激な変化と激しい国際競争に加え、3年前の東日本大震災による甚大な被害と、原子力発電所事故からの復旧、復興など、わが国は、多くの困難な課題を抱えており、建学当時の危機的状況とあい通じる時代を迎えております。まさに今の時代にこそ、本学の建学の精神である「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」ことがわが国に必要とされることであり、皆さん一人ひとりがきちんと理解した上で、本学での学びを始めていただきたいと思っております。

2つ目は大学で何を学ぶかということです。大学は専門知識を学ぶ学府であると思われがちですが、重要なのは基礎学力をしっかりと身に付けることです。理系の学問は積み上げ式で成り立っています。基礎をおろそかにする人間は高度な専門分野を理解し、発展につなげることは

できません。基本を大切にすることを忘れてください。また、将来、皆さんが科学者や技術者を目指すのであれば、専門分野を極めるだけではなく、倫理性も持たなければいけません。なぜならば、科学技術が誤った形で実用化されると恐ろしい災厄をもたらすからです。倫理性を育むためには、人間の心といったことも勉強しないとイケないだろうと思います。大学での学びに加え、日ごろから先生方や先輩、友人等、同世代に限らず多くの方々との交流を深めるとともに、幅広い読書を心がけ、多面的に物事を捉える力を養ってください。

3つ目は夢とそれを実現するための目標を持つてほしい、ということです。一生を通じて、自分で自由に時間をマネジメントできる時期は大学時代くらいしかありません。この4年間こそ、将来の自らの夢実現に向けた貴重な人生修養期間でもあります。学問を学ぶこと、人との交流を深めること、自らの将来を見据えること、全てにおいて大学生活で得られたことはこの先の人生において大きな糧となります。皆さん一人ひとりが、夢と目標の実現に向かって、人生の基盤をつくる4年間を、大切に過ごされますよう、願っております。

機械工学科の教育プログラムがJABEE認定

本学の機械工学科では、国際的に通用する技術者を養成するため、日本技術者教育認定機構(JABEE)の実地審査を受審し、このたび、機械工学科の教育プログラムがJABEEの認定を取得しました。

これにより、既にJABEEの認定を受けている電気工学科、応用化学科とともに、全ての学科がJABEEの認定を受けました。

本学のJABEE認定教育プログラムを修了すると、国家試験である技術士資格試験の第一次試験が免除され、技術士補と修習技術者の

資格が与えられます。資格保持者は国際的な技術者として幅広い業種で活躍することが期待されます。本学は、確かな基礎学力を身に付ける高等教育機関として、今後とも教育の質の向上に努めてまいります。

- JABEE認定教育プログラム
工学部 機械工学科
「機械システムコース」
- JABEE認定開始時期
平成24年4月1日にさかのぼり認定

大学改革を促進する2つのセンターを設置

本学では、さらなる大学改革を促進すべく、4月1日より2つのセンターを開設しました。今後、両センターを拠点とし、時代の要請に

応じた改革を推進し、大学全体の活性化を図ってまいります。

【教育開発センター】

教育方針に基づき、全学的な教育施策を企画するとともに、教育活動の継続的な改善の推進や支援を行うことで、本学の教育の充実や高度化に資することを目的として、教育開発センターを設置しました。

●主な教育開発センターの活動

- ①ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動の啓発および支援
- ②教育施策の企画立案
- ③教育課程の企画および改善
- ④キャリア教育の企画および改善
- ⑤地域連携センターと連携した教育改革

【地域連携センター】

基本理念に基づき、本学を地域の「地(知)の拠点」として位置付け、地域文化の向上ならびに地域活性化のための事業を地域と協働して企画・立案・実行するために、本学と学外との総合的窓口として地域連携センターを設置しました。

●主な地域連携センターの活動

- ①学外からの様々な依頼事項の受付および地域情報の収集
- ②産学官連携の推進
- ③生涯学習に関する企画立案

諏訪東京理科大学ニュース

平成26年度 入学式

平成26年度諏訪東京理科大学入学式が4月6日(日)、本学大アリーナで挙行されました。本年度は工学部156人(機械工学科51人、電気電子工学科39人、コンピュータメディア工学科66人)、経営情報学部経営情報学科46人、大学院修士課程9人、博士後期課程1人、計212人の新入生を迎えました。



新入生諸君へ 諏訪東京理科大学 学長 河村 洋

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。

本学は、東京理科大学諏訪短期大学を前身として、平成14年に4年制大学として誕生した比較的新しい大学です。本学の母体である東京理科大学は133年という長い伝統を持っており、東京物理学校の創始者の一人は、この長野県に赴任して、長野県の現在の高等学校の基礎を築かれました。本学は、その建学の精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を信州諏訪の地において実現すべく、地元の要請と支援のもとに設立されました。

本学の教育の特徴の一つに「工学と経営学の融合教育」があります。工学系と経営系の両分野の学部をもつ特長を生かして、学部を横断する学生参加型の教育を行っています。昨年は、優秀な成績を収めた学生チームを「社会人基礎力グランプリ」に参加させ、関東大会で見事に準優秀賞を受賞しました。今後もこのような教育に力を入れていきたいと考えています。

本学は、最近の厳しい就職状況の中でも高い就職率を達成しています。しかし、本学をただ卒業すれば就職が出来るわけではありません。

4年後には社会に出て、自分自身、あるいは家族、あるいはこの地域やこの国を支えていくというしっかりとした意識を持つことが大切です。このような意識は授業を受けるだけで身に付くものではなく、教員や友人との交流、あるいは課外活動や地域活動に参加する中から得られるものです。ぜひ、サークル活動や街に出る活動に積極的に参加して下さい。

また、これからの時代は、どこで働くかによらず、グローバルな視野や活動が必要となります。外国語の力を磨き、異なる文化と接する経験を積んで下さい。本学でも、英語力の検定試験、海外語学研修や地元企業の協力を得た海外インターンシップなどの機会を提供していますから、ぜひ参加して下さい。

最後に、これから大学において学ぶにあたり、何とごとについても、「どうせ無理」だと思って踏み出さないのでは何事も実現しません。自分で限界を決めず、夢に向けて進んでいく大学生活を送って下さい。それが皆さんの未来を切り開きます。本学の全ての教員と職員が力を合わせてそれを応援します。

「社会人基礎力育成グランプリ」関東大会で準優秀賞受賞

昨年12月8日(日)に、拓殖大学(東京都)にて、社会人基礎力育成グランプリ2014関東地区予選大会が開催され、諏訪東京理科大学から参加した学生チームが準優秀賞を受賞しました。

社会人基礎力育成グランプリは経済産業省の呼びかけにより2009年から始まった全国大会です。社会人基礎力とは、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つからなり、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていく

ために必要な力として定義されています。

本学では、3年生の必修科目として、工学系と経営情報系の学生で混成チームをつくり、地域の課題解決に取り組む授業を行っています。受賞チームは、諏訪市の団体から依頼された「冬の諏訪湖を彩る新しいイルミネーションの考案」に挑みました。イルミネーションのデザイン、技術的な手法の提案に加えて、キャンドルづくりのイベント開催を提案し、そのイベントで製作するキャンドルは、試作を行い、製造方法、点灯の持続時間、製造コストなどを具体的に提案しました。この授業の取り組みは、本学の教育の特長である工学と経営学をうまく融合させた取り組みとなり、学生らが行った学科混成のチームづくり、試作への挑戦などが評価され、社会人基礎力の成長がみとめられ受賞につながりました。



ボランティア活動で表彰される

本学のボランティアサークル「ボランティア」が、財団法人学生サポートセンターの「平成25年度学生ボランティア助成」に採択され、1月27日(月)、東京・青山の同財団で表彰式が行われました。

「ボランティア」は「地域のボランティアニーズに応えることと広く社会に貢献することを目的」として、大学創設後10年以上にわたり活動を積み重ねてきました。

このたびの表彰は、①平成25年度に行った子どもや障害者を対象とした福祉分野(子ども福祉教室、知的障害者入所施設の手伝い等)、里山再生などの環境分野(山開きのイベント参

加)、祭りなどの文化分野(縄文祭りの手伝い等)での地域に根ざしたボランティア活動、②3年間連続で岩手県大槌町に赴き実施してきた東日本大震災被災地支援活動が、高く評価されたものです。





首都圏で保育事業を展開する起業家

安永愛香さん (社会福祉法人 どんこ会理事長)

失敗したら何度でもチャレンジすればいい。
自分の目標に向けて、120%の力で挑んでほしい。



安永 愛香 (やすなが あいか)
1974年神奈川県生まれ。96年東京理科大学第一部経営工学科卒業。シティコープ(現・シティバンク銀行株式会社)勤務を経て98年に起業し、駅前型保育所を開設。05年に日本福祉総合研究所を設立し、事業所内・病院内で保育所を運営。07年に社会福祉法人どんこ会を設立し、初の認可保育所「朝霞どんこ保育園」を開設。現在は3法人で70施設を運営。高校生と中学生の2児の母。

畑 仕事や野外体験を取り入れた自然保育を実践する、社会福祉法人どんこ会理事長の安永愛香さん。26歳で起業してから順調に事業を拡大し、現在は首都圏で約70カ所の保育施設を運営。業界で注目を集める若手経営者の一人だ。
「高校生のころから起業に興味があって、“人の役に立つ仕事がしたい”と漠然と考えていました。経営工学科を選んだ理由は、経営系など幅広い分野が学べて将来に役立つと思ったから。当然ながら周りはSEや会計士を目指す人が多かったのですが、わたしはかなり異端でしたね(笑)」
学生時代は「学業と両立」をモットーに時間を最大限有効に使った。アルバイトは常に3〜4カ所を掛け持ちし、早朝から深夜まで寝る間を惜しんで奔走。夏休みにはバックパッカーとして諸外国を巡り、アメリカ縦断も果たした。3年次からは小学生向けに夜間の学習塾を始め、共同経営者だった同学科の先輩と学生結婚。

「毎日が充実していて塾講師の仕事にもやりがいを感じていましたが、しょせんは井の中の蛙。社会経験を積もうと思い就職活動に臨みました」
しかし、当時は超氷河期。マスコミ、商社、メーカーなどあらゆる業種の総合職に片っ端からエントリーしたが内定が出たのはわずか数社。その中から実力本位の評価体系に惹かれて外資系銀行に入社するものの、ほどなく大きな転機が訪れる。「長男を出産し、託児所を利用するようになったんです。でも、残業を終えて迎えるといつも一人ぼつんと座ってアニメのDVDを見ている。このままでいいのか、母親として不安でした」
業界の体質にも疑問を感じた。保育士はどこか受け身で、与えられた仕事を淡々とこなしているように見えた。子どもの未来に危機感を覚えると同時に、保育業界を変えたいという強い意欲が一気に湧き上がる。居ても立ってもいられず、持ち前の行動力を発揮して開業準備に取りかかると、



飼育している鶏の世話をする「どんこ保育園」の子どもたち。

勤務先を退職して保育所をオープン。
「保育の知識も経験もないし周囲は大反対。今でこそ天職だと思いますが当時は必死でしたね」
現在の目標は3年以内に保育所を100カ所開設すること。それを区切りにして、次は行政への政策提言や保育士教育に本腰を入れるという。
「保育所は子どもを預かるだけの場所ではありません。大切な人格形成期に必要な体験は何かを追求し、“育てる保育”の重要性を発信していきます」
最後に、後輩たちへのメッセージをお願いした。
「学生時代は自分のやりたいことに没頭できる最高の時間。重ねた努力は自信となり、社会人になったあなたを力強く支えてくれると思います」

平成25年度経常費補助金

日本私立学校振興・共済事業団は、平成25年度の私立大学等経常費補助金の交付状況を発表しました。

これは、①私立大学等(大学・短大・高専)の教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③私立大学等の健全性向上に資するために、経常的経費について補助するもので、全国の880校に対して、3,204億7,124万円が交付されました。(昨年度比33億3,582万円の減少)。

このうち本年度から開始された「私立大学等改革総合支援事業」(教育改革や地域・産業界との連携に取り組む大学を選定して支援する事業)については、全国で367校が選定されました。本法人では3大学ともに選定され、合せて2億5,348万3,000円が補助されました。

これを含めた大学別の交付額は、東京理大が34億2,331万6,000円、山口理大が2億257万7,000円、諏訪理大が2億4,226万円、法人全体では38億6,815万3,000円となり、前年度より約3億2,200万円増加しました。

平成25年度私大補助金 交付額上位20校

()内の数字は前年度順位/単位億円

1 (3)	日本大学	98.4
2 (2)	早稲田大学	94.6
3 (1)	慶應義塾大学	85.2
4 (4)	東海大学	66.3
5 (5)	立命館大学	59.6
6 (9)	昭和大学	51.4
7 (6)	順天堂大学	50.3
8 (8)	明治大学	45.5
9 (7)	近畿大学	44.5
10 (10)	北里大学	41.3
11 (11)	東京女子医科大学	38.6
12 (12)	福岡大学	38.2
13 (13)	東京慈恵会医科大学	34.7
14 (16)	東京理科大学	34.2
15 (22)	同志社大学	33.9
16 (15)	関西大学	33.9
17 (17)	日本医科大学	32.5
18 (14)	法政大学	30.4
19 (20)	関西学院大学	30.2
20 (19)	自治医科大学	29.7

就職

学部全体で 92.1%が 進路決定

平成26年度の新卒採用活動は、企業の採用に関する広報開始時期が12月となってから2年目となり、就職活動をする学生たちは先輩たちの就職活動を見てスケジュールがある程度つかめていることから、解禁までの期間に「自己分析」や「面接対策」「筆記試験対策」を計画的に進めることができたようです。好業績により企業の採用意欲が高まったことで早々に内々定を受ける学生がいる一方、面接で苦戦する学生もおり就職活動については二極化が進みました。

こうした状況下、3月末時点での本学卒業・修了者に対する進学・就職等の割合(進路決定率)は、学部全体で92.1%、大学院修士課程で95.1%となっています。

東京理科大学キャリアセンター(就職支援室)では、年に3回の進路ガイダンスを通じて就職活動の流れやポイント等を解説しています。また、現在就職活動中の学生に対しては本学オリジナル「就職活動手帳」を配布。長期化する就職活動のスケジュール管理、企業研究に活用しています。各校舎では、上場企業をはじめ、その関連企業や今後成長が期待される優良企業まで、延べ300社以上の企業による学内企業説明会を開催し、多くの学生が参加しました。このほかにも、企業の厳選採用への対策として「エントリーシート添削」「模擬面接」「個人面談」といった「個別」指導から公務員になるための専門的な支援まで幅広く実施しています。

就職活動中の学生はもちろん、これから、進路を考え始める学生もぜひ、積極的にキャリアセンター(就職支援室)をご利用ください。

●平成25年度主要内定先(多数順)

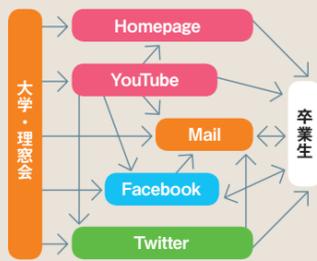
企業	※(株)は省略	内定者数
NTT東日本		24
JR東日本		24
キャノン		20
NTTデータ		18
日立製作所		18
トヨタ自動車		18
ソフトバンク		18
リコー		16
NEC		16
NECソフト		15
大和ハウス工業		15
日産自動車		14
TIS		14
野村総合研究所		13
三菱電機		13
ホンダ		11
花王		11
大林組		11
三井住友銀行		11
凸版印刷		10
大成建設		10
清水建設		10
野村證券		10
KDDI		10
日立化成工業		9
シミック		9
NTTドコモ		9
SMBC日興証券		9
アズビル		9
公務員		
東京都(都職員)		20
特別区(東京23区)職員		15
千葉県(県職員)		6
国土交通省(海上保安庁、気象庁含む)		6
経済産業省(特許庁含む)		5
教育		
公立(中学・高等学校)		79
私立(中学・高等学校)		59

理/窓/会/だ/よ/り

会長 石神一郎

大学から18万人の卒業生にメールアドレスを提供

大学から卒業生へのメールアドレスの提供により、大学の最新の情報が登録手続きをした卒業生に届きます。これを機に理窓会会員の皆さまと東京理科大学および会員相互のネットワークを拡充強化し一層の交流促進を目指します。世界中で活躍する卒業生の交流を助け、そのネットワークが大学の応援につながります。今後は理窓会からの情報を発信するツールとしてメールを活用し、さまざまな工夫をしております。



ホームカミングデー 2014は葛飾キャンパスで開催

今年もホームカミングデーを10月26日(日)に葛飾キャンパスで開催します。すでに準備は新年早々から進めていますが、多くの教職員、卒業生で構成される企画実行部会は4月に発足し、7カ月をかけて多種多様なイベントを作り上げていきます。

理窓会は4月から新執行部で運営

山田義幸理窓会会長の任期満了に伴い、代議員の信任投票により理窓会会長に石神一郎(45工・建)が選任されました。副会長、常務委員、監査委員の新執行部が4月から理窓会を運営していきます。

次号予告

- 平成25年度決算報告
- サイエンスフェア開催報告
- 春のマドンナ開催報告

発行所

東京都葛飾区新宿6-3-1
東京理科大学広報課 ☎03-5876-1717
http://www.tus.ac.jp/